



---

足立区

# 学校保健統計書

---

令和2年度

# 目 次

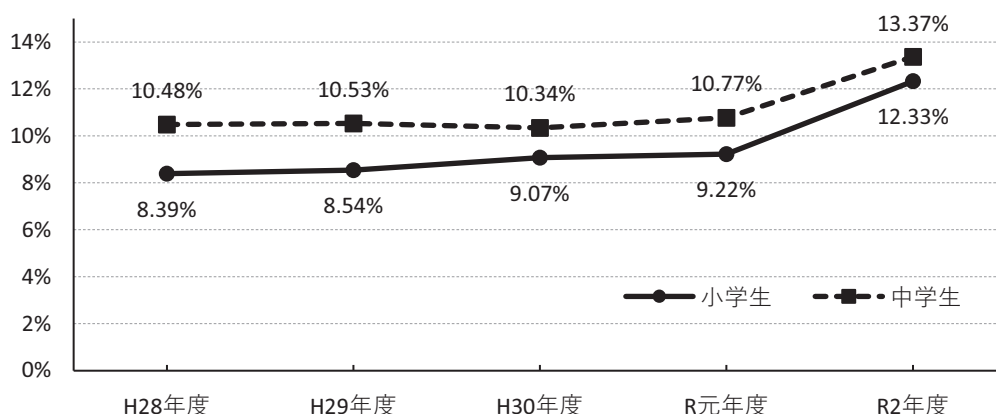
<b>1 児童生徒の発育状態</b>	
(1) 身体測定（身長・体重）の平均値	1
(2) 肥満度集計	3
<b>2 貧血・小児生活習慣病予防健診</b>	
(1) 小児生活習慣病予防健診	7
(2) 貧血検査	13
巻末【資料1】貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準	38
<b>3 定期健康診断疾病異常調査</b>	
(1) 定期健康診断の受診状況	14
(2) 四肢異常	14
(3) 視力検査	15
(4) 聴力検査	16
(5) アレルギー性疾患	17
(6) 結核検診	21
(7) 心臓疾患検診	22
(8) 尿検査（腎臓検診・糖尿病検診）	23
(9) 歯科健診	25
巻末【資料2】定期健康診断疾病異常調査の概要	39
【資料3】定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計	42
<b>4 脊柱側彎症検診</b>	
脊柱側彎症検診結果	30
<b>5 就学時健康診断</b>	
就学時健康診断結果	31
<b>6 児童生徒の感染症り患状況</b>	
(1) 調査の概要	32
(2) 月別患者数	32
(3) 過去3年間の主な感染症り患状況	33
<b>7 学校管理下における災害統計</b>	
(1) 災害発生状況	34
(2) 災害共済掛金および給付状況	37

# 令和2年度 学校保健統計報告書概要

## 1 児童生徒の発育状態「小・中ともに肥満傾向児が多い」

肥満傾向（肥満度20%以上）の割合は、小学1年生女子を除き全国・東京都の割合より高かった。また、肥満傾向は年々増加傾向にある。【P3～P6】

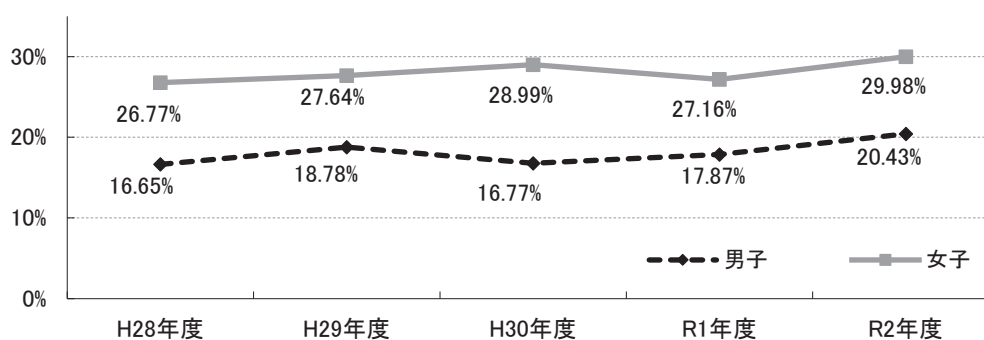
肥満傾向（肥満度20%以上）割合年次推移【男女合計】



## 2 貧血・小児生活習慣病予防健診（中2）「4人に1人が有所見※」

(1) 総合判定結果は、男子の4.9人に1人、女子の3.3人に1人が有所見者だった。男女とも増加した。【P7】

中学2年生の総合判定結果の年次推移



(2) ヘモグロビンA1c検査では、5.6%以上の割合が6.9人に1人に増加した。【P12】

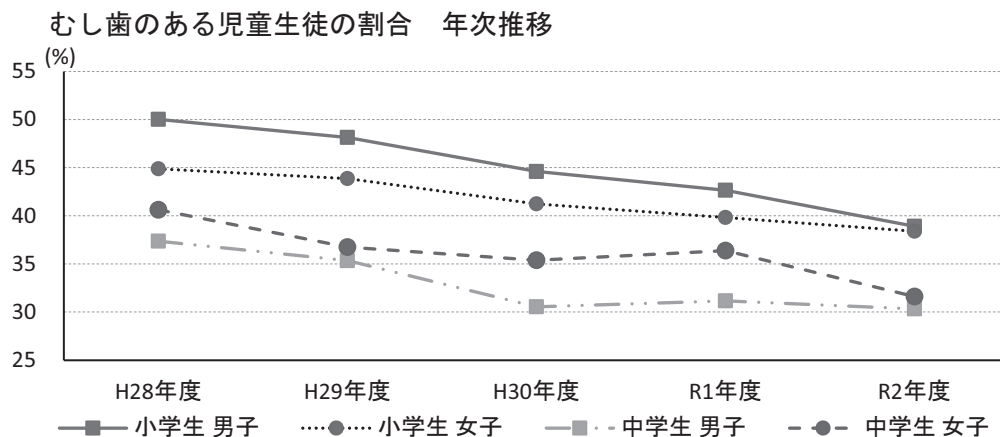
(3) 貧血検査では、有所見者が女子は12.7人に1人と男子より多い。割合は、男子は横ばいであり、女子は増加した。【P13】

※ 有所見とは正常・管理不要以外の診断だったもの。

### 3 むし歯・歯肉「むし歯の被患率は、小・中ともに減少傾向にある」

(1) むし歯のある割合は、中学1年生女子と中学3年生を除き、東京都平均を上回っていた。全体の年次推移は、小・中ともに年々減少傾向にある。

【P 2 5 ・ P 2 6】



(2) 歯肉に所見のある児童生徒の割合は、小学生はすべての学年で東京都平均を上回っていたが、中学生は中学2・3年生男子を除き、東京都平均を下回っていた。【P 2 7】

### 4 視力・聴力検査「裸眼視力1.0未満の割合は女子に多い」

(1) 学年が上がるにつれ、裸眼視力0.3未満の割合が増えていた。【P 1 5】

(2) 聴力検査による難聴者の割合は、全体で0.8%程度と前年度と比べると横ばいであった。【P 1 6】

### 5 感染症り患者数「インフルエンザはほとんど発生なし」

(1) インフルエンザはほとんど発生しなかった。【P 3 2 ・ P 3 3】

(2) 新型コロナウイルス感染症り患者数は、11～1月（第3波）をピークに増加した。【P 3 2 ・ P 3 3】

### 6 学校管理下でのけが等の災害発生件数は「100人に2人程度」

学校でのけがなどの災害発生件数および発生率は、小学生・中学生ともに概ね横ばいであった。【P 3 4】

※1 新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年4～5月に一斉臨時休業措置をとった。

※2 数字の単位未満は四捨五入を原則とした。  
したがって、合計と内訳の計の数字が一致しない場合がある。

## 1 児童生徒の発育状態

### (1) 身体測定（身長・体重）の平均値

東京都および全国の平均値と比較すると、身長・体重ともに大差はみられないが、体重はすべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。

表1 全国・東京都との比較

	区分		身長 (cm)			体重 (kg)		
	年齢	性別	足立区	東京都	全国	足立区	東京都	全国
小学生	小1	男子	118.4	118.4	117.5	22.5	22.2	22.0
		女子	117.3	117.4	116.7	21.8	21.7	21.5
	小2	男子	124.2	124.7	123.5	25.8	25.5	24.9
		女子	123.2	123.4	122.6	24.8	24.5	24.3
	小3	男子	130.0	130.2	129.1	29.6	29.0	28.4
		女子	129.2	129.3	128.5	28.1	27.5	27.4
	小4	男子	135.4	135.0	134.5	33.1	31.8	32.0
		女子	135.6	135.4	134.8	32.1	31.2	31.1
	小5	男子	141.0	141.1	140.1	37.7	36.6	35.9
		女子	142.1	142.3	141.5	36.1	35.7	35.4
	小6	男子	147.8	147.3	146.6	42.4	40.4	40.4
		女子	148.6	148.9	148.0	41.3	40.4	40.3
中学生	中1	男子	155.6	156.0	154.3	47.7	46.8	45.8
		女子	153.4	153.5	152.6	46.0	45.1	44.5
	中2	男子	162.2	163.1	161.4	52.6	52.3	50.9
		女子	155.7	156.2	155.2	49.0	47.8	47.9
	中3	男子	167.0	167.4	166.1	56.7	55.9	55.2
		女子	157.1	157.5	156.7	50.8	50.1	50.2

図1 全国・東京都との比較

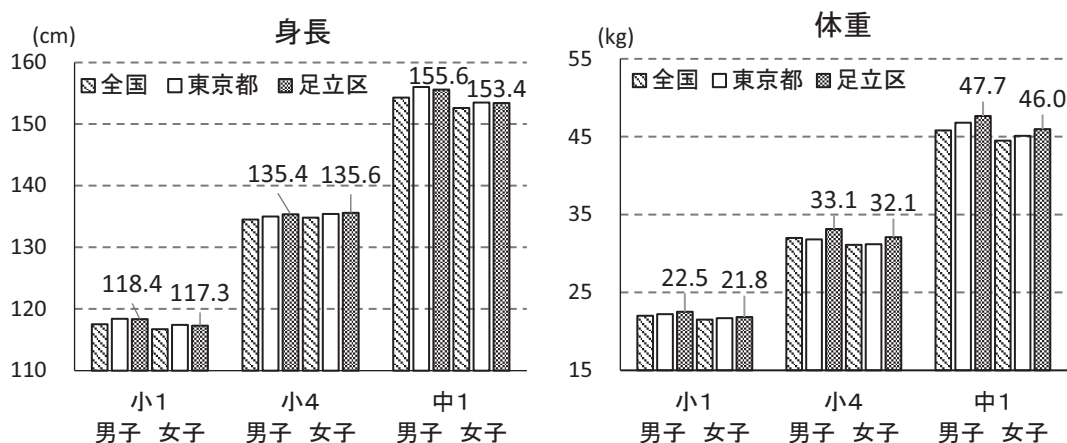


表2 年次推移 【身長の平均値】

単位 (cm)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R2年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R2年度
小1	117.0	116.9	116.9	116.8	116.8	118.4	116.2	115.9	115.9	115.8	115.4	117.3
小3	128.5	128.3	128.4	128.6	128.5	130.0	125.0	127.6	127.7	127.4	127.6	129.2
小5	139.4	139.5	139.2	139.2	139.2	141.0	139.3	140.3	140.1	140.5	140.5	142.1
中1	152.6	153.2	152.9	152.7	153.4	155.6	152.3	152.4	152.5	152.0	152.2	153.4
中3	165.7	165.6	165.3	165.5	165.8	167.0	157.1	156.9	156.7	156.5	156.8	157.1

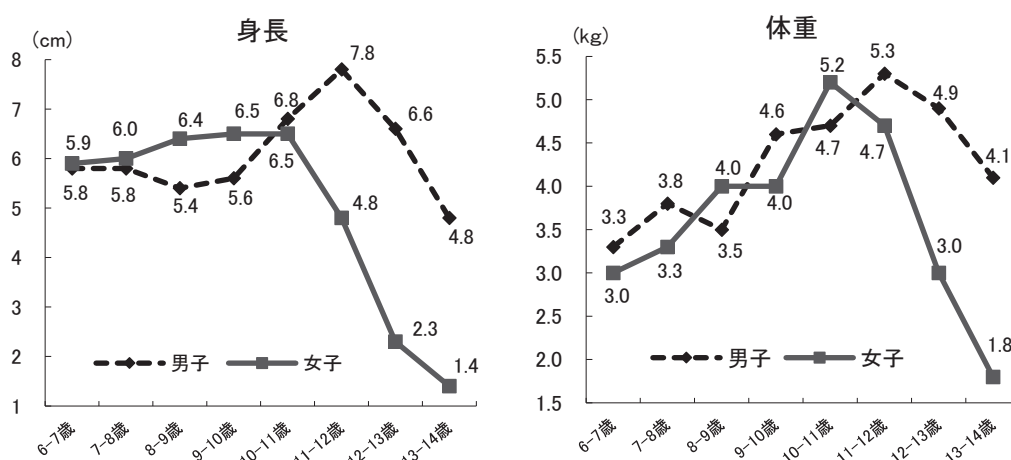
表3 年次推移 【体重の平均値】

単位 (kg)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R2年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R2年度
小1	22.0	21.9	22.0	21.7	21.8	22.5	21.6	21.4	21.2	21.0	20.9	21.8
小3	28.0	28.1	27.9	27.6	27.5	29.6	28.5	27.2	27.0	26.7	26.9	28.1
小5	35.6	36.0	35.8	34.4	34.6	37.7	36.4	35.6	34.9	34.5	34.7	36.1
中1	45.5	46.3	45.9	45.0	45.2	47.7	45.8	45.6	45.3	44.1	44.9	46.0
中3	56.2	57.5	55.9	55.7	54.6	56.7	51.6	51.4	51.0	50.2	50.6	50.8

平成8年度から5年ごとの数値および最新の数値である。身長・体重ともに、これまでより増加している。

図2 年齢間の差（1年間の身長・体重の伸び）



身長が最も伸びた時期と体重が最も増えた時期は、いずれも、男子が11～12歳、女子が10～11歳であった。

身長・体重ともに、女子の方が成長のピークが早く、性別による違いがある。

(2) 肥満度集計

肥満度による肥満傾向の割合は、小学1年生を除き、すべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。男子は小学5年生、女子は中学1年生がピークであった。

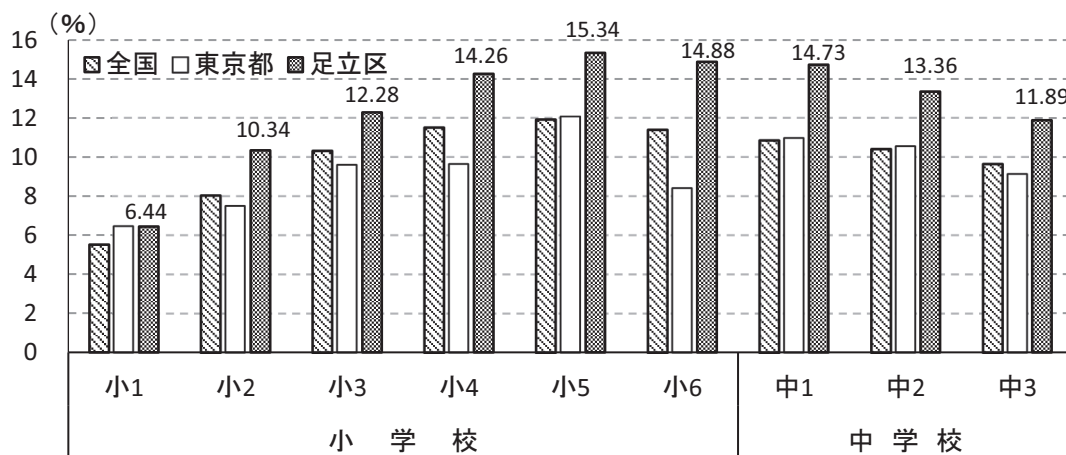
痩身傾向の割合は、男女とも全国・東京都平均よりも下回っている学年が多かった。

表4 肥満度 【男女合計】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校合計(人)	中1	中2	中3	中学校合計(人)	
	4,940	5,117	5,169	5,147	5,281	5,337	30,991	4,509	4,440	4,097	13,046	
肥満傾向	再)20以上合計	318	529	635	734	810	794	3,820	664	593	487	1,744
		6.44	10.34	12.28	14.26	15.34	14.88	12.33	14.73	13.36	11.89	13.37
	50以上	21	51	74	79	89	103	417	79	94	88	261
		0.43	1.00	1.43	1.53	1.69	1.93	1.35	1.75	2.12	2.15	2.00
30~49	102	202	260	275	324	311	1,474	266	239	151	656	
	2.06	3.95	5.03	5.34	6.14	5.83	4.76	5.90	5.38	3.69	5.03	
20~29	195	276	301	380	397	380	1,929	319	260	248	827	
	3.95	5.39	5.82	7.38	7.52	7.12	6.22	7.07	5.86	6.05	6.34	
普通	-19~19	4,612	4,561	4,482	4,308	4,344	4,388	26,695	3,686	3,707	3,460	10,853
		93.36	89.13	86.71	83.70	82.26	82.22	86.14	81.75	83.49	84.45	83.19
痩身傾向	-29~-20	10	25	52	104	125	154	470	154	137	145	436
		0.20	0.49	1.01	2.02	2.37	2.89	1.52	3.42	3.09	3.54	3.34
	-49~-30	0	2	0	1	2	1	6	5	3	5	13
		0.00	0.04	0.00	0.02	0.04	0.02	0.02	0.11	0.07	0.12	0.10

図3 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男女合計】



肥満度 (%) = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100

肥満傾向児とは、肥満度が20%以上の者。

痩身傾向児とは、肥満度が-20%以下の者

普通児とは、肥満度が-20%超~20%未満の者

全国・東京都：学校統計調査（無作為抽出）

足立区：身長・体重・肥満度報告より作成

表5 肥満度 【男子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校 合計(人)	中1	中2	中3	中学校 合計(人)	
	2,568	2,595	2,616	2,592	2,728	2,771	15,870	2,376	2,281	2,087	6,744	
肥満傾向	再)20以上 合計	178	304	387	429	532	502	2,332	408	354	307	1,069
		6.93	11.72	14.79	16.55	19.50	18.12	14.69	17.17	15.52	14.71	15.85
	50以上	16	32	55	55	72	74	304	50	68	60	178
		0.62	1.23	2.10	2.12	2.64	2.67	1.92	2.10	2.98	2.88	2.64
30~49	53	114	158	156	213	203	897	168	148	93	409	
	2.06	4.39	6.04	6.02	7.81	7.33	5.65	7.07	6.49	4.46	6.07	
20~29	109	158	174	218	247	225	1131	190	138	154	482	
	4.25	6.09	6.65	8.41	9.05	8.12	7.13	8.00	6.05	7.38	7.15	
普通	-19~19	2,387	2,283	2,199	2,121	2,141	2,189	13,320	1,890	1,845	1,691	5,426
		92.95	87.98	84.03	81.83	78.48	79.00	83.93	79.55	80.89	81.03	80.46
瘦身傾向	-29~-20	3	6	30	41	54	79	213	75	80	87	242
		0.12	0.23	1.15	1.58	1.98	2.85	1.34	3.16	3.51	4.17	3.59
	-49~-30	0	2	0	1	1	1	5	3	2	2	7
		0.00	0.08	0.00	0.04	0.04	0.04	0.03	0.13	0.09	0.10	0.10

図4 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男子】

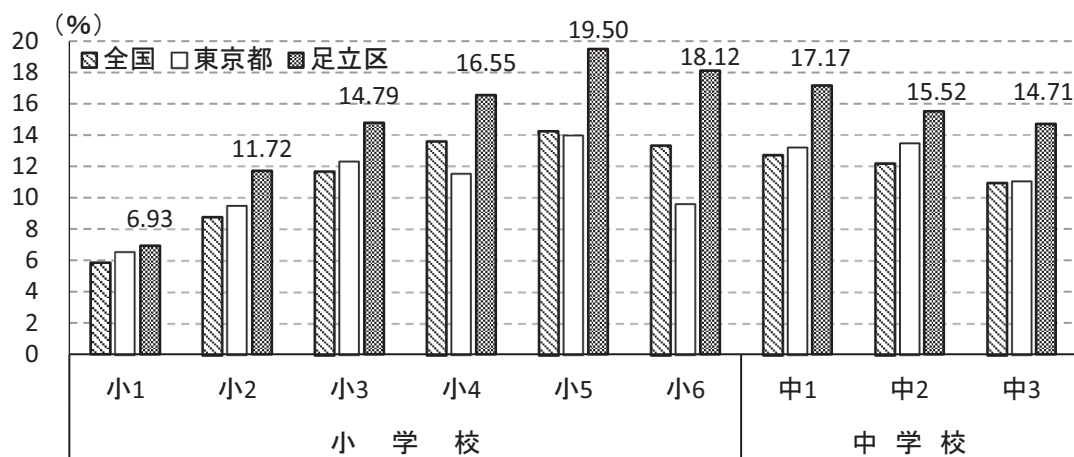


図5 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【男子】

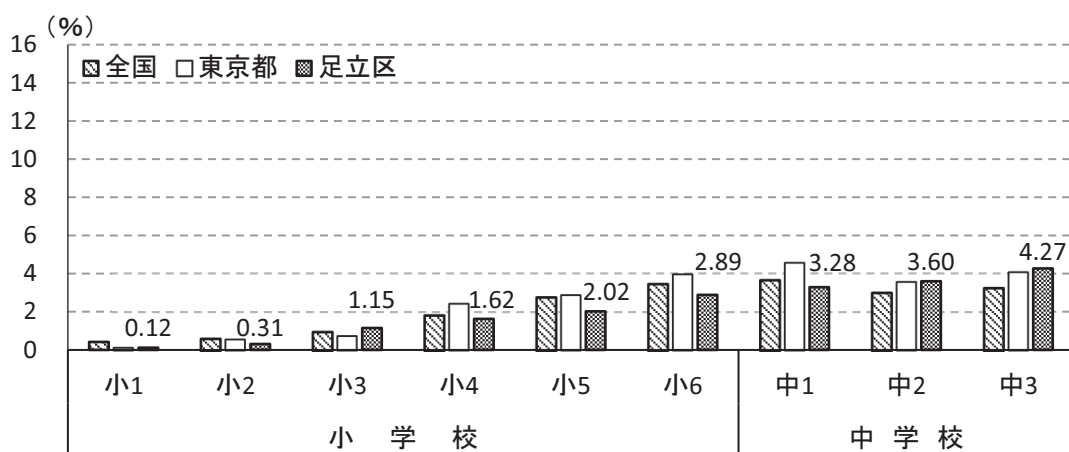




表6 肥満度 【女子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1 2,372	小2 2,522	小3 2,553	小4 2,555	小5 2,553	小6 2,566	小学校 合計(人) 15,121	中1 2,133	中2 2,159	中3 2,010	中学校 合計(人) 6,302	
肥満傾向	再)20以上 合計	140	225	248	305	278	292	1,488	256	239	180	675
		5.90	8.92	9.71	11.94	10.89	11.38	9.84	12.00	11.07	8.96	10.71
	50以上	5	19	19	24	17	29	113	29	26	28	83
		0.21	0.75	0.74	0.94	0.67	1.13	0.75	1.36	1.20	1.39	1.32
	30~49	49	88	102	119	111	108	577	98	91	58	247
		2.07	3.49	4.00	4.66	4.35	4.21	3.82	4.59	4.21	2.89	3.92
20~29	86	118	127	162	150	155	798	129	122	94	345	
	3.63	4.68	4.98	6.34	5.88	6.04	5.28	6.05	5.65	4.68	5.47	
普通	-19~19	2,225	2,278	2,283	2,187	2,203	2,199	13,375	1,796	1,862	1,769	5,427
	93.80	90.33	89.42	85.60	86.29	85.70	88.45	84.20	86.24	88.01	86.12	
瘦身傾向	-29~-20	7	19	22	63	71	75	257	79	57	58	194
		0.30	0.75	0.86	2.47	2.78	2.92	1.70	3.70	2.64	2.89	3.08
	-49~-30	0	0	0	0	1	0	1	2	1	3	6
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.01	0.09	0.05	0.15	0.10

図6 肥満傾向児(20%以上)出現率 【女子】

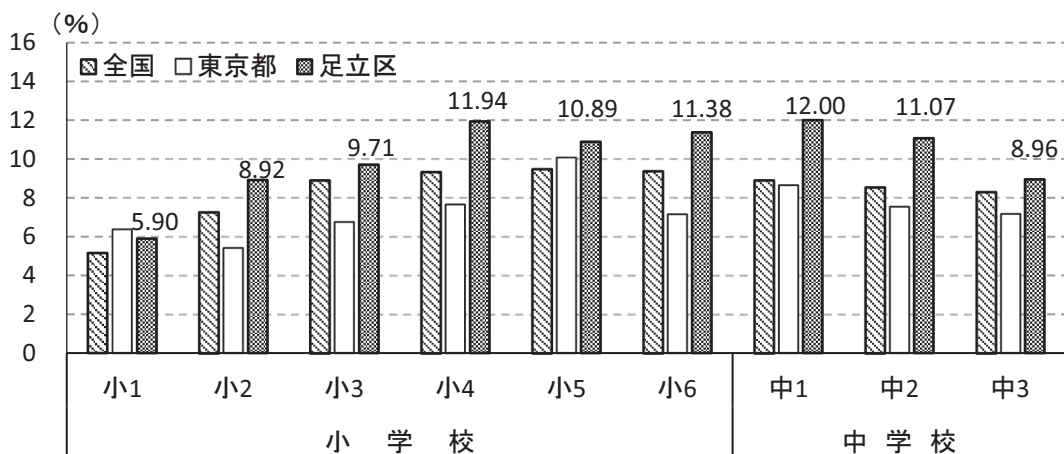


図7 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【女子】

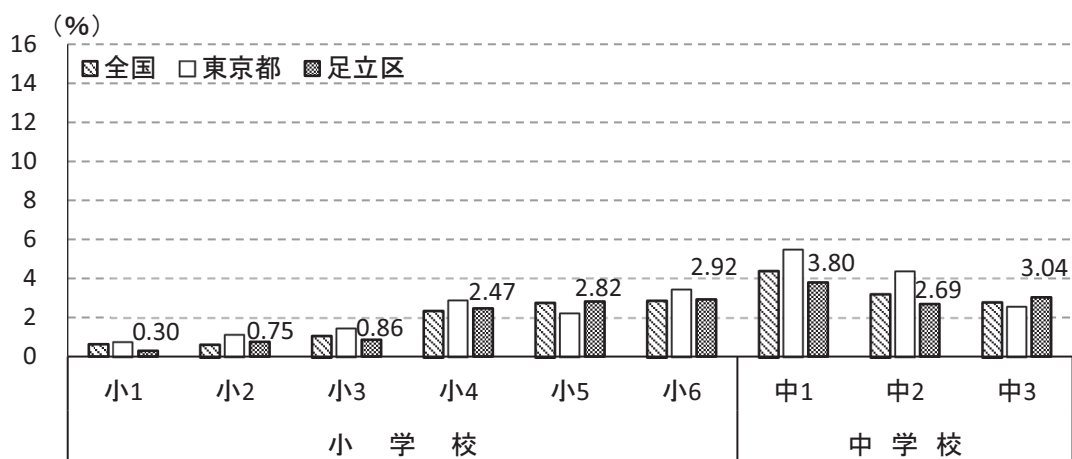
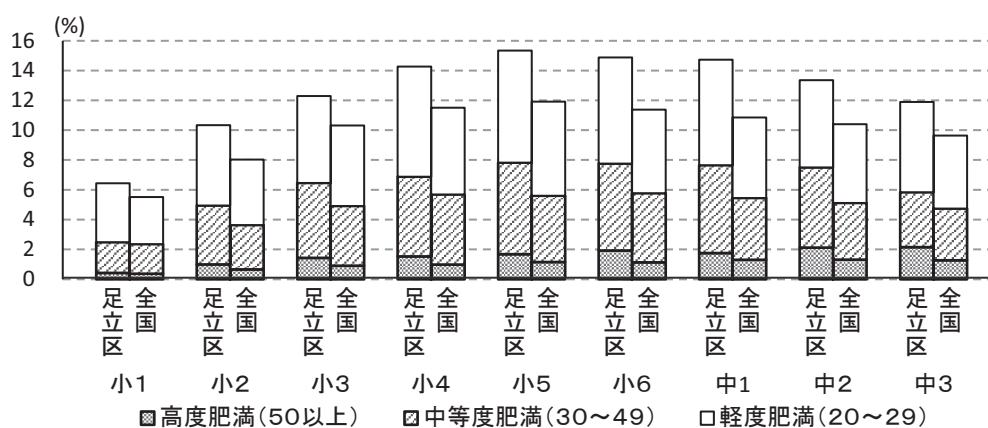


表7・図8 肥満度 【男女合計】 重度・中等度・軽度内訳 全国比較

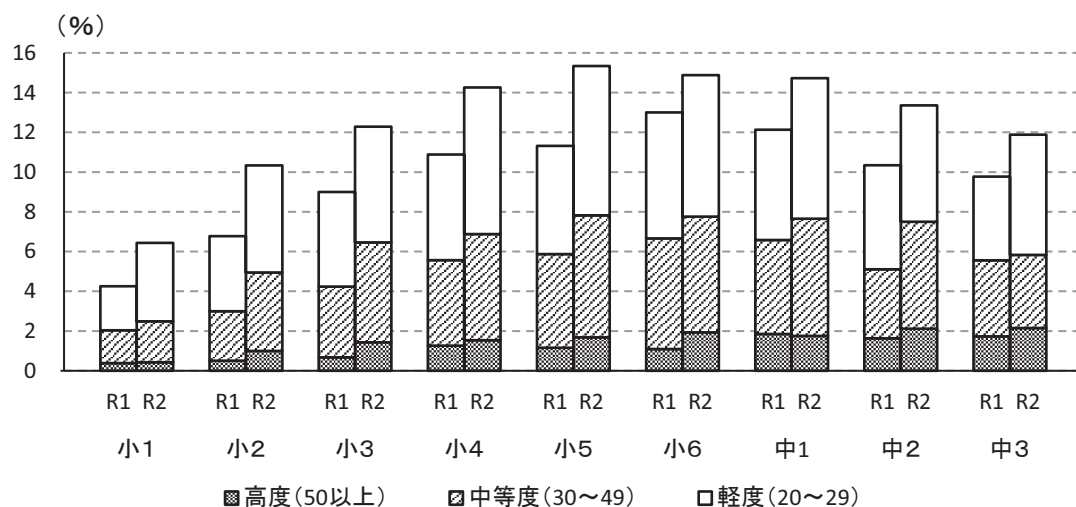
単位 (%)

		高度肥満(50以上)		中等度肥満(30~49)		軽度肥満(20~29)	
		足立区	全国	足立区	全国	足立区	全国
小学生	小1	0.43	0.37	2.06	1.99	3.95	3.15
	小2	1.00	0.66	3.95	2.97	5.39	4.40
	小3	1.43	0.91	5.03	4.00	5.82	5.40
	小4	1.53	0.98	5.34	4.71	7.38	5.81
	小5	1.69	1.15	6.14	4.45	7.52	6.31
	小6	1.93	1.13	5.83	4.64	7.12	5.61
中学生	中1	1.75	1.30	5.90	4.15	7.07	5.40
	中2	2.12	1.31	5.38	3.81	5.86	5.28
	中3	2.15	1.27	3.69	3.47	6.05	4.90



肥満度20%以上の内訳について全国と比較すると、すべての学年およびすべての肥満度の分類で全国を上回っていた。軽度肥満と中等度肥満はほとんどの学年で、全国の割合と比べて1.0%以上多かった。

図9 肥満度 【男女合計】 令和元年度との比較



前年度との比較では、すべての学年で割合が増加した。

## 2 貧血・小児生活習慣病予防健診

### (1) 小児生活習慣病予防健診

思春期、成長期における小児生活習慣病の予防および早期発見を目的として実施している。

検査内容：肥満度、血圧、血清脂質〔総コレステロール、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール〕  
ヘモグロビンA1c（H28追加）、糖尿病歴（学校申告）

対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上（H29追加）と判定された中学3年生

判定基準：巻末【資料1】のとおり

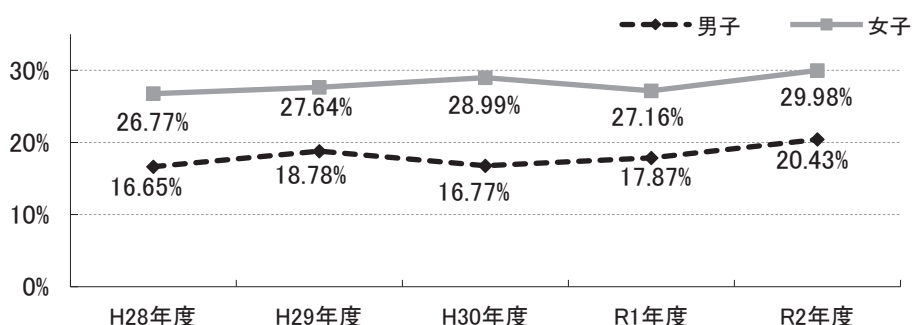
### ア 総合判定結果

表8 小児生活習慣病予防健診 総合判定結果集計 単位 上段（人）/ 下段（%）

		受診者数	要医学的管理	要経過観察	要生活指導	管理不要	正常
全受診者	男子	2,227	105 4.71	216 9.70	215 9.65	550 24.70	1,141 51.23
	女子	2,189	75 3.43	197 9.00	446 20.37	478 21.84	993 45.36
	計	4,416	180 4.08	413 9.35	661 14.97	1,028 23.28	2,134 48.32
中学2年	男子	2,002	68 3.40	162 8.09	179 8.94	500 24.98	1,093 54.60
	女子	1,951	46 2.36	151 7.74	388 19.89	433 22.19	933 47.82
	計	3,953	114 2.88	313 7.92	567 14.34	933 23.60	2,026 51.25
中学3年	男子	225	37 16.44	54 24.00	36 16.00	50 22.22	48 21.33
	女子	238	29 12.18	46 19.33	58 24.37	45 18.91	60 25.21
	計	463	66 14.25	100 21.60	94 20.30	95 20.52	108 23.33

図10 中学2年生の総合判定結果の年次推移

【要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者の割合】



総合判定の有所見者（要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者）は、男子は4.9人に1人に、女子は3.3人に1人にそれぞれ増加した。

（参考）健診の変遷

平成4年度	対象は中学1年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学2年生3校でモデル実施としてスタート
平成8年度	指定校を5校に拡大
平成14年度	対象を中学2年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学3年生へ変更 全中学校に拡大
平成28年度	前年度「Ⅰ要医学的管理」判定の中学3年生を対象に追加
平成29年度	前年度「ヘモグロビンA1c 5.6%以上」の中学3年生を対象に追加

## イ 各検査項目結果

(ア) 肥満度(中学2年生の全体の傾向については、前章P3～P6を参照のこと)

表9 判定結果集計

単位 上段(人) / 下段(%)

	肥満度指数(%)	痩せ型	標準型	肥満型		
		-20以下	-19~19	(軽度) 20~29	(中等度) 30~49	(高度) 50以上
全 受 診 者	男子	73 2,227	1,754 78.76	136 6.11	179 8.04	85 3.82
	女子	69 2,189	1,879 85.84	116 5.30	91 4.16	34 1.55
	計	142 4,416	3,633 82.27	252 5.71	270 6.11	119 2.69
中 2	男子	70 2,002	1,635 81.67	110 5.49	133 6.64	54 2.70
	女子	62 1,951	1,707 87.49	100 5.13	64 3.28	18 0.92
	計	132 3,953	3,342 84.54	210 5.31	197 4.98	72 1.82
中 3	男子	3 225	119 52.89	26 11.56	46 20.44	31 13.78
	女子	7 238	172 72.27	16 6.72	27 11.34	16 6.72
	計	10 463	291 62.85	42 9.07	73 15.77	47 10.15

図11 中学2年生の肥満度分布

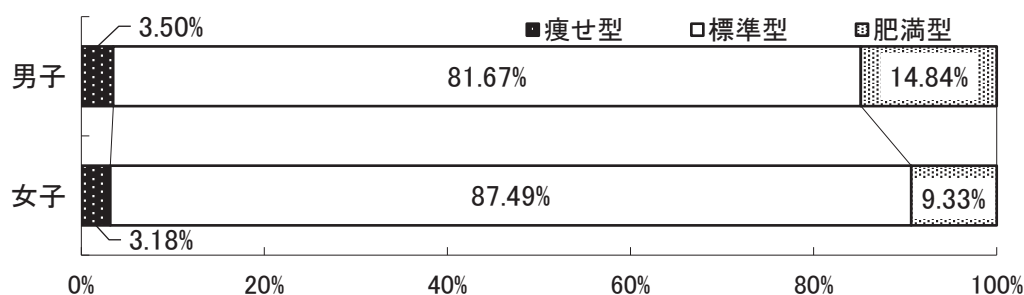
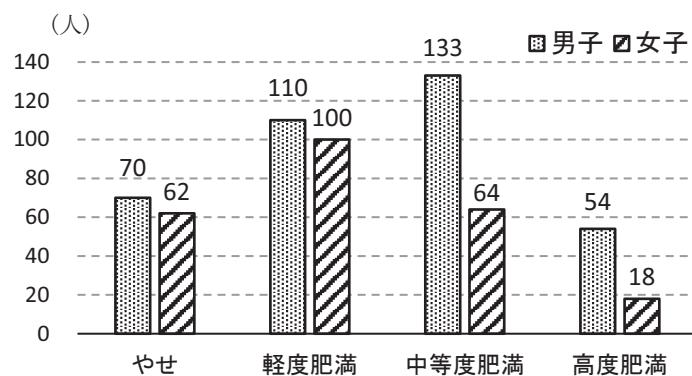
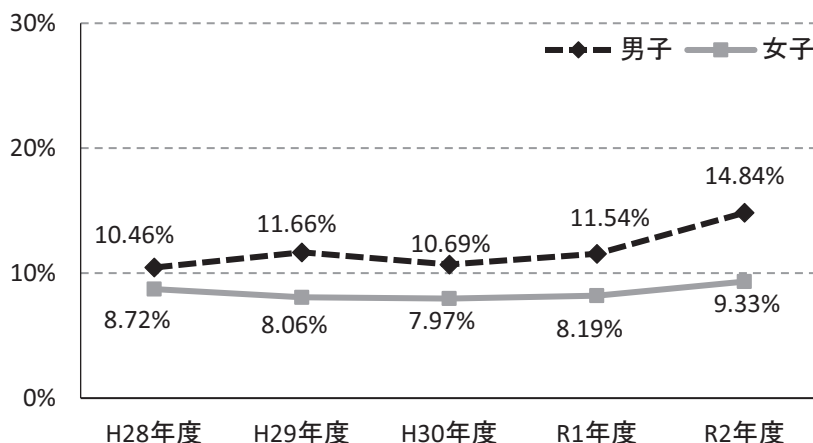


図12 中学2年生のやせ型・肥満型の人数



やせ型・肥満型ともに、男子が多かった。

図 1 3 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【肥満型と判定された者の割合】

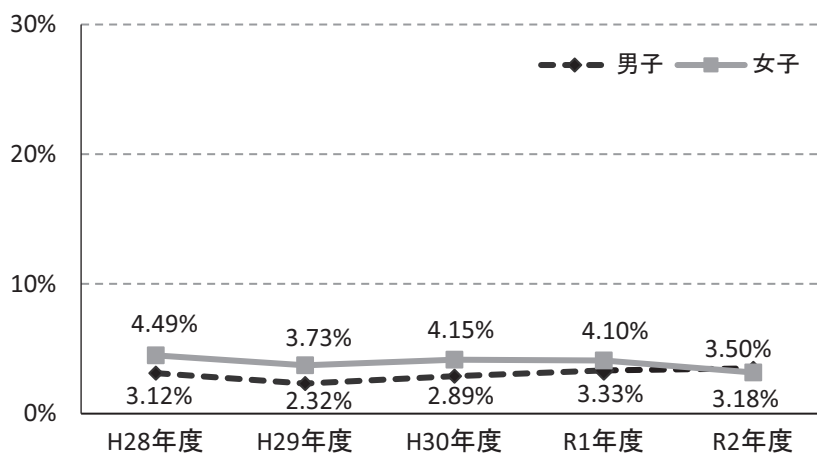


肥満型と判定された者の割合は、男女とも増加した。  
女子に比べ、男子の割合が高く、男子の 6.7 人に 1 人が肥満型であった。

(参考) 肥満傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
男子	8.28	8.69	8.73	9.63	12.18
女子	7.46	7.45	7.37	7.88	8.53

図 1 4 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【やせ型と判定された者の割合】



やせ型と判定された者の割合は、男女とも大きな変動は見られないが、前年度に比べると男子がやや増加し、女子がやや減少した。

(参考) 痩身傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

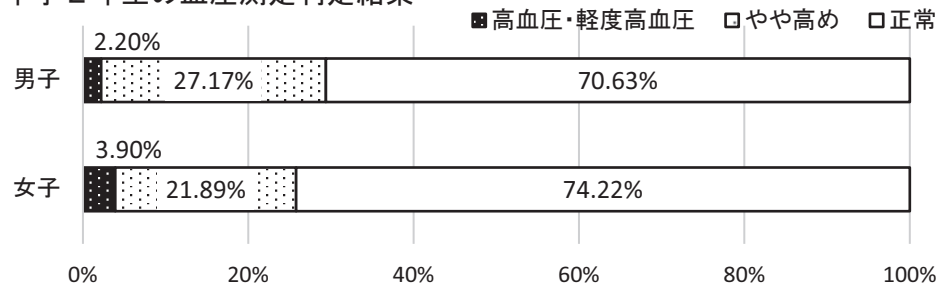
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
男子	2.04	2.26	2.21	2.31	2.99
女子	3.47	3.69	3.32	3.56	3.20

## (イ) 血圧測定

表 10 判定結果集計 単位 上段(人) / 下段(%)

		検査人数	高血圧	軽度高血圧	やや高め	正常	血圧判定基準値		
全受診者	男子	2,227	9 0.40	49 2.20	653 29.32	1,516 68.07	男子	高血圧	150/95mmHg以上
	女子	2,189	12 0.55	83 3.79	507 23.16	1,587 72.50		軽度高血圧	140/85mmHg以上
	計	4,416	21 0.48	132 2.99	1,160 26.27	3,103 70.27		やや高め	120/70mmHg以上
						正常		120/70mmHg未満	
中学2年	男子	2,002	7 0.35	37 1.85	544 27.17	1,414 70.63	女子	高血圧	145/90mmHg以上
	女子	1,951	7 0.36	69 3.54	427 21.89	1,448 74.22		軽度高血圧	135/80mmHg以上
	計	3,953	14 0.35	106 2.68	971 24.56	2,862 72.40		やや高め	120/70mmHg以上
						正常		120/70mmHg未満	
中学3年	男子	225	2 0.89	12 5.33	109 48.44	102 45.33	女子	高血圧	145/90mmHg以上
	女子	238	5 2.10	14 5.88	80 33.61	139 58.40		軽度高血圧	135/80mmHg以上
	計	463	7 1.51	26 5.62	189 40.82	241 52.05		やや高め	120/70mmHg以上
						正常		120/70mmHg未満	

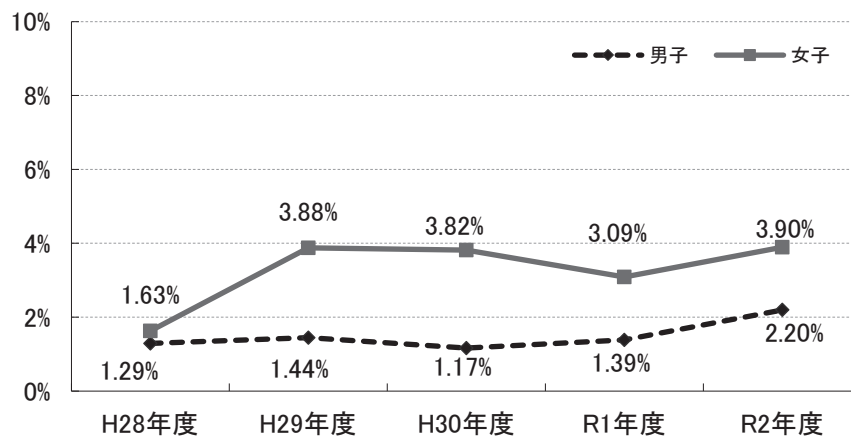
図 15 中学2年生の血圧測定判定結果



血圧がやや高め以上の割合は、男子は3.4人に1人、女子は3.9人に1人であり、男女とも前年度よりも割合が増加した。

図 16 中学2年生の血圧判定結果の年次推移

【高血圧・軽度高血圧と判定された者の割合】



軽度高血圧以上の割合では、男女ともにやや増加した。

## (ウ) 血清脂質検査

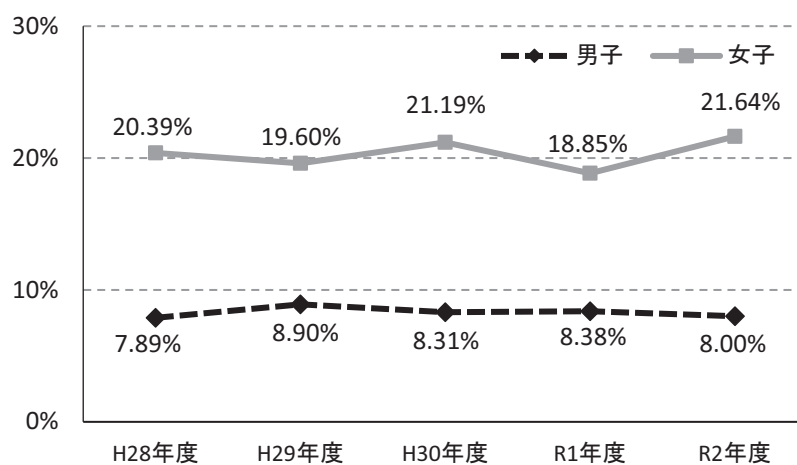
表 1 1 判定結果集計

単位 上段(人) / 下段(%)

		検査人数	かなりの異常	異常	異常傾向	やや異常傾向	正常
全 受 診 者	男子	2,225	21 0.94	33 1.48	164 7.37	244 10.97	1,763 79.24
	女子	2,186	26 1.19	60 2.74	413 18.89	287 13.13	1,400 64.04
	計	4,411	47 1.07	93 2.11	577 13.08	531 12.04	3,163 71.71
中 2	男子	2,000	13 0.65	24 1.20	123 6.15	203 10.15	1,637 81.85
	女子	1,950	17 0.87	49 2.51	356 18.26	248 12.72	1,280 65.64
	計	3,950	30 0.76	73 1.85	479 12.13	451 11.42	2,917 73.85
中 3	男子	225	8 3.56	9 4.00	41 18.22	41 18.22	126 56.00
	女子	236	9 3.81	11 4.66	57 24.15	39 16.53	120 50.85
	計	461	17 3.69	20 4.34	98 21.26	80 17.35	246 53.36

図 1 7 中学 2 年生の血清脂質検査判定結果の年次推移

【かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者の割合】



血清脂質の有所見者（かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者）の割合は、女子は男子に比べて2倍以上高く、4.6人に1人であった。前年度と比較すると、男子は横ばいであり、女子は増加した。

## (エ) ヘモグロビンA1c検査（平成28年度からの追加項目）

ヘモグロビンA1c検査は、過去1～2ヶ月間の平均的血糖値を反映する検査である。

表12 判定結果集計

単位 上段（人） / 下段（％）

	検査人数	a 高値	b 高値	d 正常高値	n 正常範囲
		6.5%以上	6.0～6.4%	5.6～5.9%	5.5%以下
全受診者	男子	2,225 4 0.18	12 0.54	398 17.89	1,811 81.39
	女子	2,185 1 0.05	8 0.37	350 16.02	1,826 83.57
	計	4,410 5 0.11	20 0.45	748 16.96	3,637 82.47
中学2年	男子	2,000 2 0.10	8 0.40	294 14.70	1,696 84.80
	女子	1,949 0 0.00	6 0.31	265 13.60	1,678 86.10
	計	3,949 2 0.05	14 0.35	559 14.16	3,374 85.44
中学3年	男子	225 2 0.89	4 1.78	104 46.22	115 51.11
	女子	236 1 0.42	2 0.85	85 36.02	148 62.71
	計	461 3 0.65	6 1.30	189 41.00	263 57.05

表13 ヘモグロビンA1c検査判定基準

図18 中学2年生のヘモグロビンA1c検査結果

高値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0～6.4%	医療機関（かかりつけ医、学校医）で再検査（空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査）をお勧めします。
正常範囲	d	5.6～5.9%	正常高値です（2年生は来年度、学校で再検査）。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

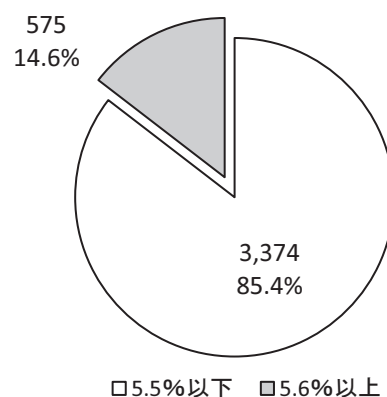


表14 中学2年生 小児生活習慣病有所見者\*とヘモグロビンA1c検査結果との関係

小児生活習慣病予防健診有所見者*	994人	25.15%
ヘモグロビンA1c 正常高値以上（5.6%以上）	575人	14.56%
小児生活習慣病予防健診有所見者*と ヘモグロビンA1c 5.6%以上の重複者	190人	4.81%

\* 生活習慣病予防健診有所見者…Ⅰ 要医学的管理、Ⅱ 要経過観察、Ⅲ 要生活指導 判定の者

ヘモグロビンA1c検査で正常高値以上の割合は、6.9人に1人であり、前年度より増加した。



## (2) 貧血検査

思春期、成長期における貧血の予防および早期発見を目的として実施している。

検査内容：白血球数(WBC)、赤血球数(RBC)、血色素量(Hgb)、赤血球容積比(Hct)等

対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上(H29追加)と判定された中学3年生

判定基準：巻末【資料1】のとおり

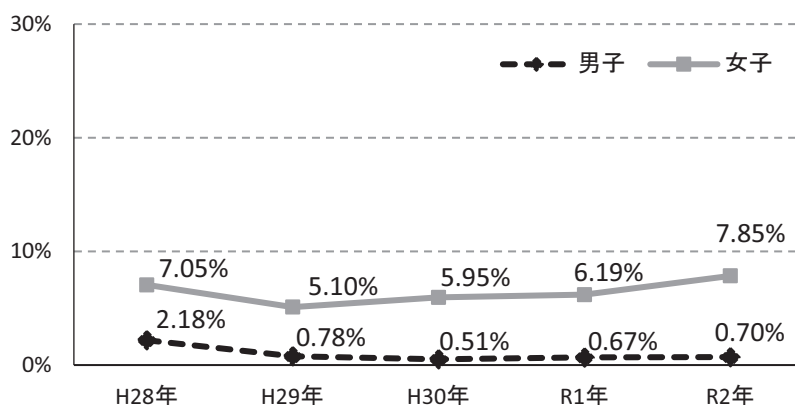
表15 貧血検査 判定結果集計 単位 上段(人)/下段(%)

		受診者数	要受診	要再検	正常
全受診者	男子	2,224	14 0.63	40 1.80	2,170 97.57
	女子	2,185	173 7.92	16 0.73	1,996 91.35
	計	4,409	187 4.24	56 1.27	4,166 94.49
中2	男子	1,999	14 0.70	35 1.75	1,950 97.55
	女子	1,949	153 7.85	14 0.72	1,782 91.43
	計	3,948	167 4.23	49 1.24	3,732 94.53
中3	男子	225	0 0.00	5 2.22	220 97.78
	女子	236	20 8.47	2 0.85	214 90.68
	計	461	20 4.34	7 1.52	434 94.14

※ 要再検者は血色素量高値または赤血球・平均赤血球容積(MCV)値異常の者

図19 中学2年生の貧血検査判定結果の年次推移

【有所見者※の割合】



※ 有所見者について

平成28年度までは「要受診・要注意」、平成29年度からは「要受診」を計上(平成29年度に基準値変更あり。分類「要注意」が削除されたため)。

貧血検査の有所見者(要受診と判定された者)は、女子が男子に比べ約1.1倍多く、女子は12.7人に1人であった。割合は、男子は横ばいであり、女子は増加した。

### 3 定期健康診断疾病異常調査

学校保健安全法に基づく定期健康診断の結果から、小・中学校児童生徒の健康実態を把握することを目的として実施している。概要は、巻末【資料2】のとおり。

#### (1) 定期健康診断の受診状況

受診率は、小学生は98.5%、中学生は95.3%であった。

表16 定期健康診断の受診率学年別受診状況

	在籍者数			受診者数			受診率		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
小1	2,588	2,392	4,980	2,553	2,357	4,910	98.65	98.54	98.59
小2	2,620	2,549	5,169	2,571	2,508	5,079	98.13	98.39	98.26
小3	2,636	2,571	5,207	2,604	2,549	5,153	98.79	99.14	98.96
小4	2,608	2,568	5,176	2,572	2,542	5,114	98.62	98.99	98.80
小5	2,746	2,584	5,330	2,701	2,541	5,242	98.36	98.34	98.35
小6	2,793	2,580	5,373	2,744	2,535	5,279	98.25	98.26	98.25
小学校計	15,991	15,244	31,235	15,745	15,032	30,777	98.46	98.61	98.53
中1	2,419	2,161	4,580	2,343	2,087	4,430	96.86	96.58	96.72
中2	2,354	2,200	4,554	2,229	2,101	4,330	94.69	95.50	95.08
中3	2,183	2,078	4,261	2,048	1,952	4,000	93.82	93.94	93.87
中学校計	6,956	6,439	13,395	6,620	6,140	12,760	95.17	95.36	95.26
小中合計	22,947	21,683	44,630	22,365	21,172	43,537	97.46	97.64	97.55

#### (2) 四肢異常

表17 四肢異常の割合

	男子	単位 (%)		女子	単位 (%)	
		足立区	東京都		足立区	東京都
小学生	小1	0.16	0.11	小1	0.25	0.11
	小2	0.12	0.13	小2	0.12	0.10
	小3	0.15	0.19	小3	0.08	0.13
	小4	0.16	0.18	小4	0.20	0.15
	小5	0.11	0.23	小5	0.24	0.13
	小6	0.18	0.28	小6	0.36	0.23
中学生	中1	0.30	1.10	中1	0.19	0.36
	中2	0.27	1.14	中2	0.43	0.45
	中3	0.49	0.56	中3	0.41	0.47

四肢異常は、すべての学年で1%以下であった。

東京都との比較では、男子は小学1年生で東京都平均を上回り、女子は小学3年生と中学全学年で東京都平均を下回っていた。

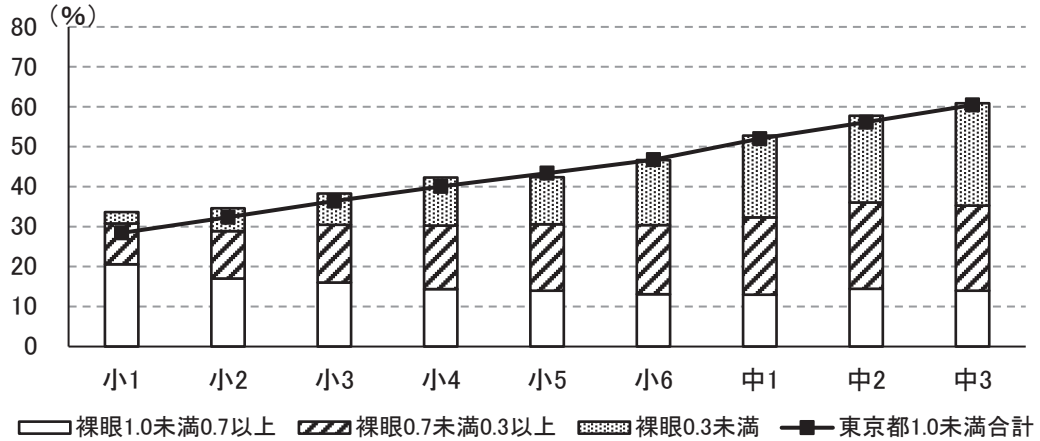
※ 四肢異常の計上の調査内容について

平成28年度は「調査票提出までに専門医により四肢に関して疾病・異常と判断された者」が対象であった。平成29年度からは「学校医が疾病異常と判断した者と、医療機関において治療中、経過観察中の者」と対象が拡大された。

(3) 視力検査 (裸眼視力 1.0 未満の児童生徒の割合)

男女とも、学年が上がるにつれ、裸眼視力 0.3 未満の割合が増えていた。すべての学年において、男子よりも女子の方が裸眼視力 1.0 未満の割合が高かった。また、小学 5・6 年生男子を除き、東京都平均よりも裸眼視力 1.0 未満の割合が高かった。

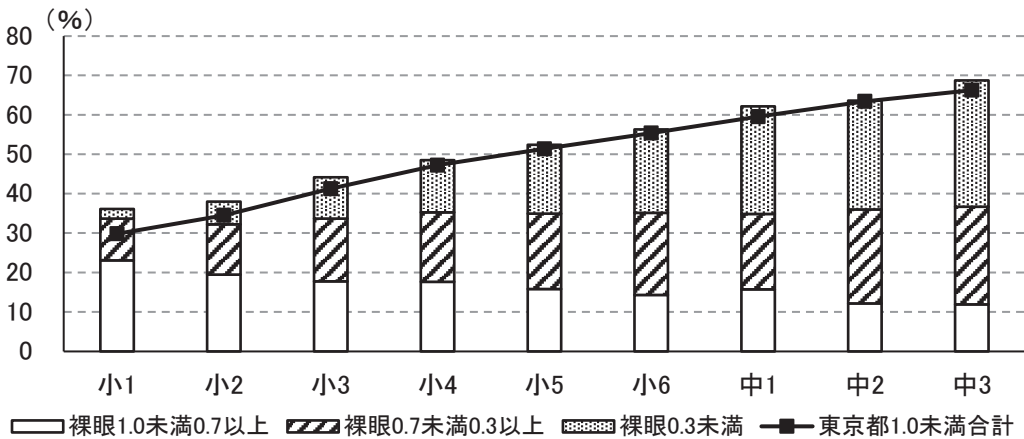
図 20・表 18 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【男子】



単位 (%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	33.65	34.62	38.30	42.30	42.36	46.67	52.80	57.75	60.86
	東京都	28.46	32.35	36.38	40.05	43.38	46.74	52.01	56.14	60.46

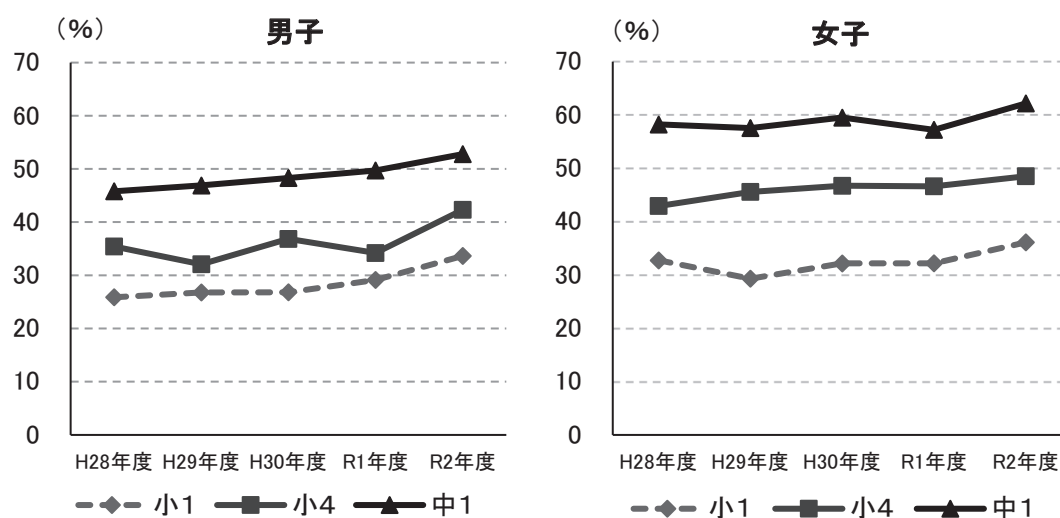
図 21・表 19 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【女子】



単位 (%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	36.09	37.99	44.16	48.51	52.40	56.29	62.15	63.60	68.71
	東京都	29.83	34.49	41.26	47.22	51.37	55.36	59.52	63.40	66.27

図22・表20 裸眼視力1.0未満割合の年次推移



単位(%)

	男 子					女 子				
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小1	25.87	26.78	26.81	29.13	33.65	32.72	29.28	32.15	32.16	36.09
小4	35.42	32.07	36.85	34.20	42.30	42.92	45.56	46.71	46.61	48.51
中1	45.79	46.89	48.30	49.71	52.80	58.20	57.53	59.49	57.21	62.15

## (4) 聴力検査

聴力検査による難聴者の割合は、全体で0.8%程度であり、前年度と比べると横ばいであった。

表21 難聴者※数の年次推移

単位 上段(人) / 下段(%)

	男 子					女 子				
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小1	41 1.50	33 1.26	28 1.09	28 1.08	32 1.25	54 2.09	40 1.57	32 1.25	23 0.91	37 1.56
小2	19 0.69	24 0.88	20 0.79	8 0.30	34 1.31	29 1.13	28 1.09	30 1.19	22 0.86	27 1.07
小3	16 0.58	25 0.90	19 0.72	13 0.50	13 0.50	20 0.80	21 0.82	29 1.15	7 0.27	26 1.01
小5	15 0.61	26 0.96	11 0.41	7 0.25	11 0.40	21 0.88	16 0.63	16 0.63	11 0.43	22 0.86
中1	16 0.70	22 0.99	15 0.70	11 0.48	15 0.63	25 1.12	20 0.89	12 0.59	8 0.37	14 0.66
中3	19 0.79	13 0.57	14 0.63	13 0.60	8 0.39	26 1.13	22 1.00	21 0.96	19 0.87	8 0.40

※ 難聴者とは、オーディオメータを使用して検査した場合、両耳とも1,000ヘルツにおいて30デシベル、または、4,000ヘルツにおいて25デシベル相当の音が聴取できない者。

※ 聴力検査は、小学1～3年生と5年生、中学1年生と3年生で実施している。

(5) アレルギー性疾患

各疾患については、ここ1年以内にその疾患と判定された者、または医療機関で経過観察中の者を、学校医の判定に加え保健調査や日常の健康観察により把握している。

ア アレルギー性眼疾患

アレルギー性眼疾患の被患率は、男子は小学6年生、女子は小学5年生が最も高く、中学生で減少した。すべての学年で、女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表22・図23 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

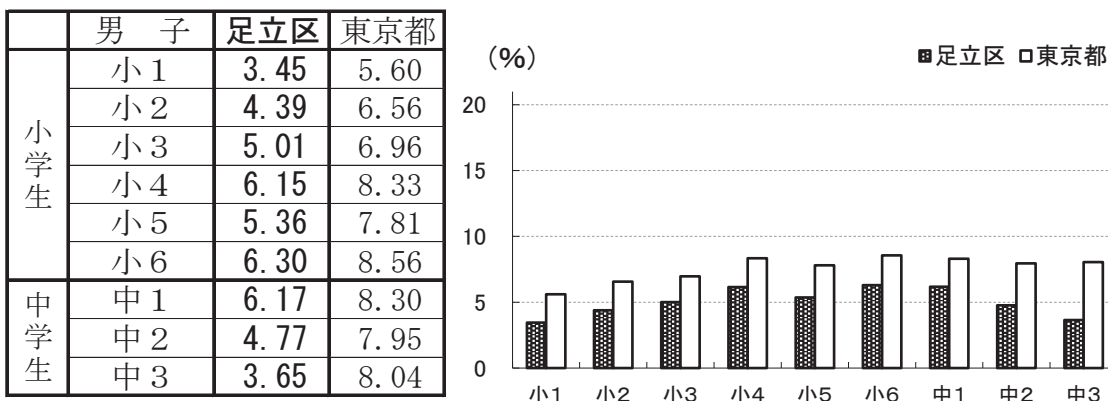


表23・図24 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

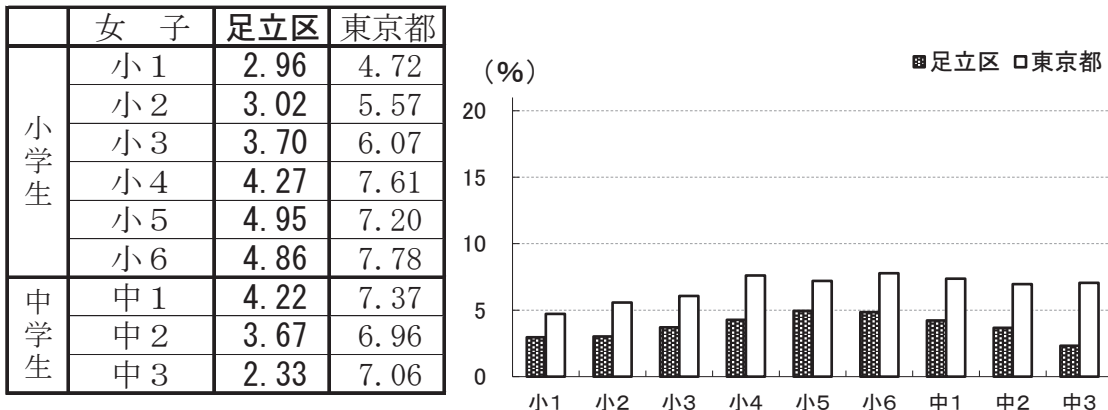


表24 年次推移 単位 受診数・被患数(人)/被患率(%)

	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	31,034	2,260 7.28	31,059	2,381 7.67	31,201	2,416 7.74	31,100	2,073 6.67	30,359	1,385 4.56
中学生	13,429	708 5.27	13,158	632 4.80	12,766	581 4.55	12,636	537 4.25	12,444	523 4.20

被患率は前年度に比べ小学生・中学生ともに減少し、過去5年間で最も低かった。

## イ アレルギー性鼻疾患

アレルギー性鼻疾患の被患率は、男子は小学6年生、女子は小学5年生が最も高く、すべての学年で女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表25・図25 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

	男子	足立区	東京都
小学生	小1	7.52	13.11
	小2	8.84	15.02
	小3	11.39	16.43
	小4	11.79	18.45
	小5	11.54	18.31
	小6	12.70	18.48
中学生	中1	10.95	19.07
	中2	7.33	18.11
	中3	6.74	17.82

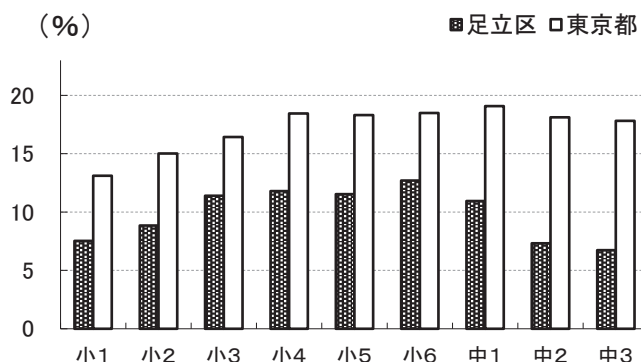


表26・図26 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

	女子	足立区	東京都
小学生	小1	5.13	9.44
	小2	5.38	11.01
	小3	6.40	12.05
	小4	7.70	14.06
	小5	7.91	13.75
	小6	7.29	14.28
中学生	中1	7.12	14.95
	中2	6.34	14.87
	中3	6.03	15.16

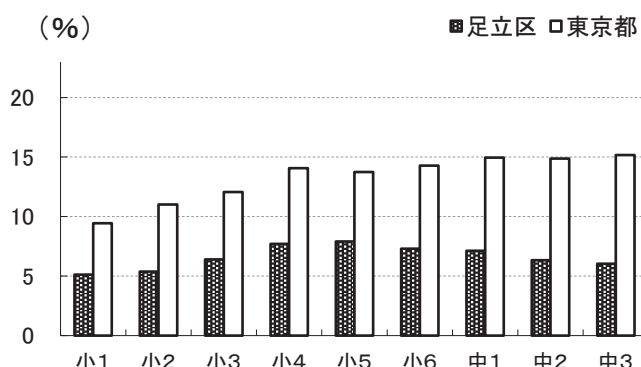


表27 年次推移

単位 受診数・被患数(人)/被患率(%)

	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	31,053	3,975 12.80	30,831	3,968 12.87	31,316	3,774 12.05	31,102	3,180 10.22	30,347	2,638 8.69
中学生	13,448	1,710 12.72	13,137	1,463 11.14	12,782	1,522 11.91	12,627	1,032 8.17	12,394	930 7.50

被患率は前年度に比べ小学生・中学生ともに減少し、過去5年間で最も低かった。

### ウ アレルギー性皮膚疾患

アレルギー性皮膚疾患の被患率は、小学5年生以外は男子の割合が高かった。東京都との比較では、男女ともすべての学年で、東京都平均を下回っていた。

表28・図27 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

	男子	足立区	東京都
小学生	小1	3.68	5.25
	小2	3.42	5.10
	小3	4.26	5.05
	小4	4.90	5.13
	小5	3.33	5.10
	小6	4.26	4.89
中学生	中1	4.40	4.47
	中2	1.97	3.99
	中3	1.66	3.95

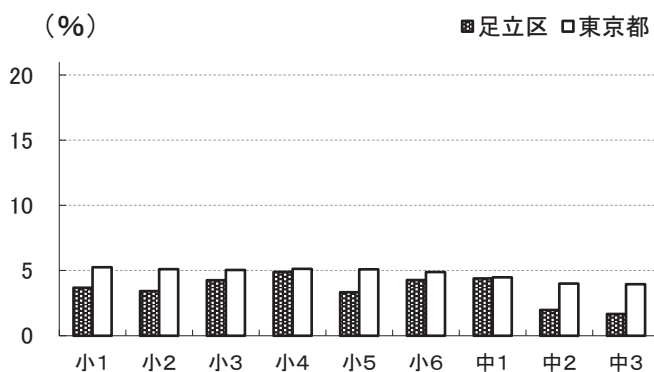


表29・図28 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

	女子	足立区	東京都
小学生	小1	2.89	4.97
	小2	3.35	4.76
	小3	3.02	4.49
	小4	3.50	4.80
	小5	3.35	4.68
	小6	3.08	4.65
中学生	中1	3.69	3.79
	中2	1.33	3.58
	中3	1.59	3.61

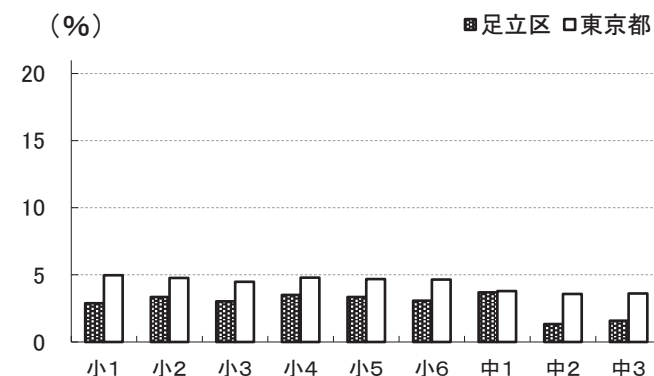


表30 年次推移

単位 受診数・被患数 (人) / 被患率 (%)

	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	31,198	1,302 4.17	31,115	1,531 4.92	31,441	1,272 4.05	31,258	1,077 3.45	30,777	1,107 3.60
中学生	13,504	342 2.53	13,275	349 2.63	12,865	310 2.41	12,674	205 1.62	12,760	317 2.48

被患率は前年度に比べ小学生・中学生ともに増加した。

## エ 気管支喘息

気管支喘息の被患率は、すべての学年で女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、小学生は小学1・5年生男子、小学2・3年生女子以外は東京都平均を上回っているが、中学生は中学1年生男子以外は下回っていた。

表31・図29 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

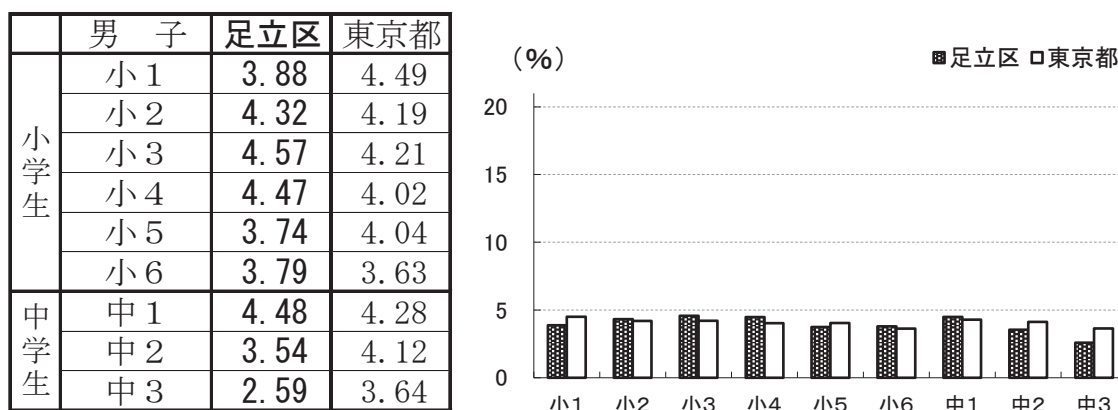


表32・図30 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

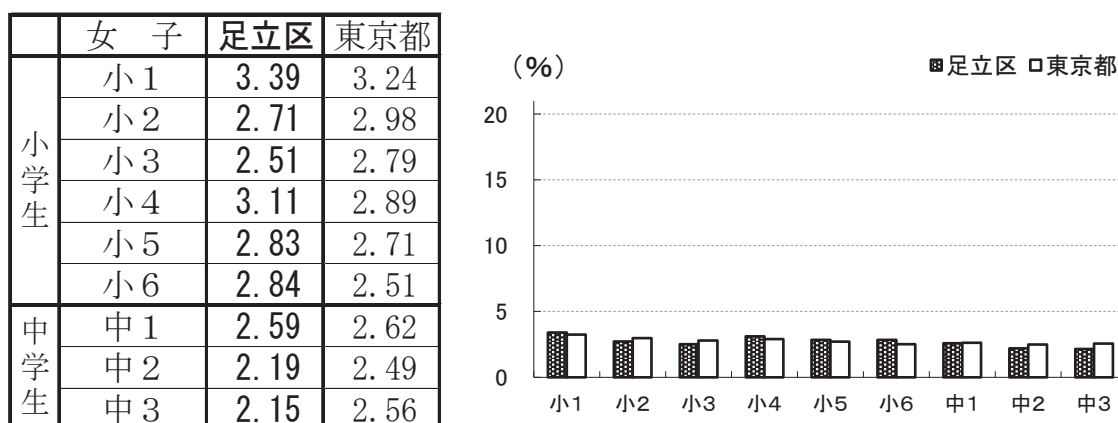


表33 年次推移

単位 受診数・被患数(人)/被患率(%)

	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	31,198	1,784 5.72	31,115	1,779 5.72	31,441	1,697 5.40	31,258	1,190 3.81	30,777	1,084 3.52
中学生	13,504	557 4.12	13,275	461 3.47	12,865	494 3.84	12,674	345 2.72	12,760	379 2.97

小学生の被患率は、前年度に続き減少し、過去5年間で最も低かった。  
中学生の被患率は、前年度に比べ増加した。



(6) 結核検診

小・中学校児童生徒の結核予防対策として実施している。

精密検査対象者は、0名であり、結核被患者は発見されなかった。

表 3 4 結核検診結果

単位 上段(人)/下段(%)

		問診調査		学校医による診察		教育委員会での検討が必要とされた人数	精密検査対象者数	
		実施者数	要検討者数	実施者数	要検討者数		教育委員会対象となった人数	教育委員会検討対象となった割合(%)
足立区	小学生	31,229	112 0.36	30,353	10 0.03	90 0.29	0 0.00	0.00
	中学生	13,388	30 0.23	12,822	2 0.02	29 0.22	0 0.00	0.00
	合計	44,617	142 0.32	43,175	12 0.03	119 0.27	0 0.00	0.00

表 3 5 結核検診精密検査結果

単位 上段(人)/下段(%)

		精密検査受検者数						精密検査結果					
		精密検査対象者数	精密検査受検者数	内 訳				要医療		経過観察	異常なし	精密検査受検者数から異常なしとなった割合(%)	
ツベルクリン反応検査のみ	ツベルクリン反応検査・X線撮影			X線撮影	QFT検査	(診察のみ等)	要医療	予防内服(再掲)					
足立区	小学生	0	0 0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	中学生	0	0 0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	合計	0	0 0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00

## (7) 心臓疾患検診

小・中学校児童生徒の心臓病疾患の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表36 検査内容

アンケート調査		第1次検査		第2次検査	
内容	対象	内容	対象	内容	対象
アンケートによる異常者抽出	児童・生徒全員 ※ただし、小・中学1年生は参考用として用いる。	2点心音図 4誘導心電図	小・中学1年生全員 およびアンケートなどによる抽出者	標準12誘導心電図 専門医による問診聴打診 その他の必要な検査 負荷心電図 心エコー検査 4点心音図 など	第1次検査有所見者 および経過観察者

表37 検査結果 【小学生】

単位 上段(人)/下段(%)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
小1	4,937	48 0.97	31 0.63	0 0.00	3 0.06	14 0.28	40 0.81
他学年 抽出者	302	24 7.95	8 2.65	0 0.00	2 0.66	14 4.64	13 4.30
合計	5,239	72 1.37	39 0.74	0 0.00	5 0.10	28 0.53	53 1.01

表38 検査結果 【中学生】

単位 上段(人)/下段(%)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
中1	4,499	67 1.49	34 0.76	0 0.00	1 0.02	32 0.71	98 2.18
他学年 抽出者	173	9 5.20	3 1.73	0 0.00	0 0.00	6 3.47	13 7.51
合計	4,672	76 1.63	37 0.79	0 0.00	1 0.02	38 0.81	111 2.38

有所見者では、小学生・中学生ともに、先天性心疾患および心電図異常が多く見られた。

表39 心疾患別診断結果 【小学生】

単位(人)

項目 区分	先天性心疾患										心電図異常										心 疾 患 の 他 計	合 計					
	V S D	A S D	P D A	P F S	T O F	A V S D	T G A	M R	そ の 他	小 計	後 天 性 心 疾 患	右脚ブロック		期外収縮		房室ブロック			肥大				W P W	そ の 他	小 計		
												完 全	不 完 全	心 室 性	上 室 性	1 度	2 度	完 全	左 室	右 室							
小1	7	8	1	4	0	1	0	0	1	9	31	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	1	3	3	14	3	48
他学年 抽出者	2	2	1	0	0	0	0	0	1	2	8	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	8	1	14	2	24
合計	9	10	2	4	0	1	0	0	2	11	39	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	1	11	4	28	5	72

表 4 0 心疾患別診断結果 【中学生】

単位(人)

項目 区分	先天性心疾患											心電図異常										その他 疾患 の 計	合計			
	VSD	ASD	PDA	TOS	AAS	AVSD	TGA	MR	その他	小計	後天性 心疾患	右脚ブロック		期外収縮		房室ブロック			肥大		WPW			その他	小計	
												完全	不完全	心室性	上室性	1度	2度	完全	左室	右室						
中1	6	11	1	0	2	2	0	0	1	11	34	0	0	0	20	1	1	0	0	1	0	4	5	32	1	67
他学年 抽出者	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	1	6	0	9
合計	7	12	1	0	2	2	0	2	11	37	0	0	0	24	1	1	0	0	1	0	5	6	38	1	76	

注) 診断名について

VSD-心室中隔欠損      P S-肺動脈狭窄      AVSD-心内膜床欠損      WPW-WPW症候群  
 ASD-心房中隔欠損      TOS-ファロー四徴      TGA-大血管転位  
 PDA-動脈管開存      A S-大動脈弁狭窄      MR-僧帽弁閉鎖不全症

小学生・中学生ともに、先天性心疾患ではASD(心房中隔欠損)が多く、心電図異常では心室性期外収縮が最も多かった。

(8) 尿検査(腎臓検診・糖尿病検診)

小・中学校児童生徒の腎臓病、糖尿病の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表 4 1 腎臓検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査(四法方式) 小児科医による一般的診断 血圧測定 血液学的検査 血液生化学的検査 免疫学的検査

表 4 2 腎臓検診 検査結果

単位 上段(人)/下段(%)

項目 種別	第1次検査		第2次検査		検査 第3次 者数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳						
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			要 受 診			単 独 所 見			
							腎 炎	腎炎疑	尿路 感染症	血尿	微量血尿	蛋白尿	その他
小学生	31,155	1,147 3.68	1,070	438 1.41	294	205 0.66	0 0.00	0 0.00	10 0.03	74 0.24	79 0.25	41 0.13	1 0.003
中学生	13,103	1,224 9.34	1,136	320 2.44	241	109 0.83	0 0.00	2 0.02	5 0.04	17 0.13	35 0.27	50 0.38	0 0.00

※ 要受診者の症状(血尿や尿蛋白の重複)は、単独所見の件数に含まれていない。  
 ※ 起立性蛋白尿は管理不要とし有所見者数に含まれていない。  
 ※ その他は腎不全疑い

第3次検査の結果、中学生に2人、腎炎の疑いのある者が発見された。

表 4 3 糖尿病検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査 (尿糖、インスリン、アセトン) 専門医による診察 ブドウ糖負荷試験(血糖、尿糖) 血液検査

表 4 4 糖尿病検診 検査結果

単位 上段(人)/下段(%)

種別	第 1 次 検 査		第 2 次 検 査		検 診 第 3 次 者 数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳				
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			糖尿病	糖尿病 疑	境界型 糖尿病	高インス リン血症	その他
小学生	31,155	31 0.10	25	10 0.03	7	1 0.003	1 0.003	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
中学生	13,103	42 0.32	32	13 0.10	6	2 0.02	2 0.02	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

第3次検査の結果、小学生に1人、中学生に2人、糖尿病の者が発見された。

表 4 5 糖尿病発見数の年次推移

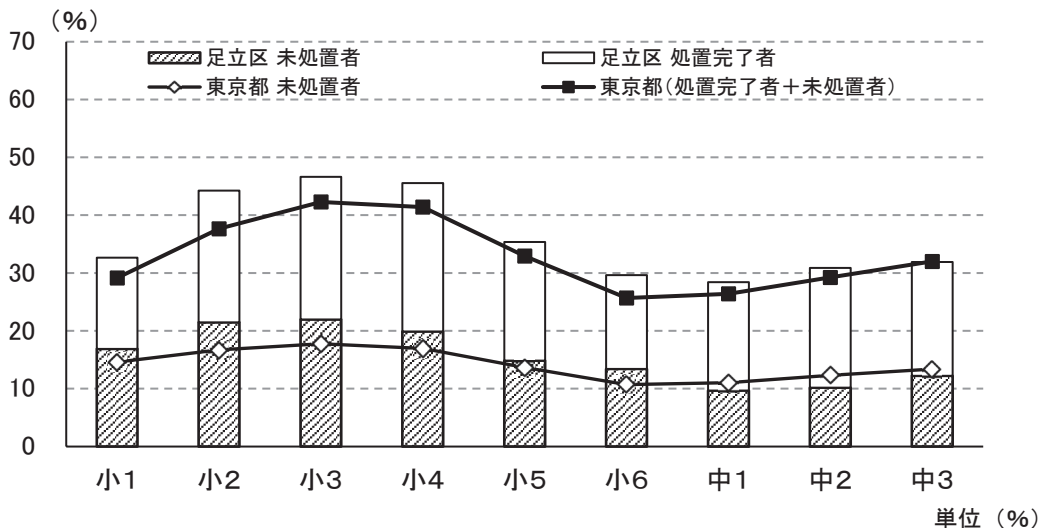
単位 (人)

種別	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小学生	0	1	0	0	1
中学生	2	1	0	0	2

(9) 歯科健診

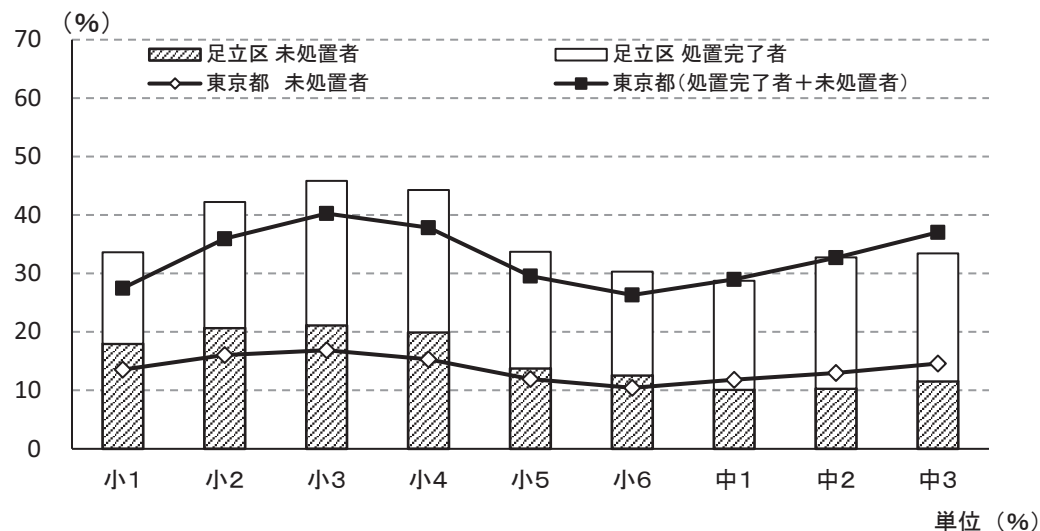
ア 乳歯または永久歯のむし歯（治療済みのむし歯も含む）のある児童生徒の割合

図31・表46 学年別割合および東京都比較 【男子】



		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	32.65	44.25	46.64	45.56	35.37	29.64	28.42	30.87	31.91
	東京都	29.15	37.66	42.29	41.40	32.93	25.70	26.39	29.23	32.01

図32・表47 学年別割合および東京都比較 【女子】



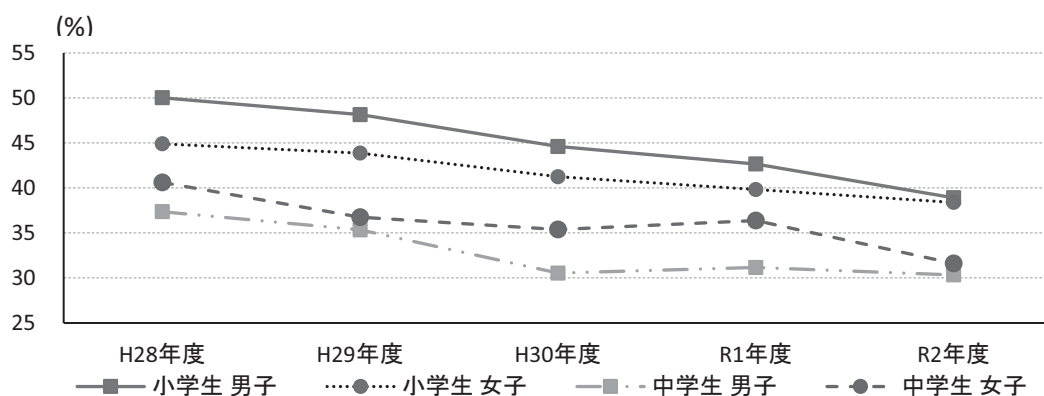
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	33.63	42.21	45.83	44.28	33.69	30.30	28.74	32.74	33.44
	東京都	27.48	35.94	40.26	37.83	29.54	26.32	28.98	32.70	37.04

むし歯の被患率は、永久歯に生え変わる小学校高学年で一旦減少し、以降微増傾向にあった。東京都との比較では、中学1年生女子と中学3年生を除き、東京都平均を上回っていた。未処置者の割合は、小学生はすべての学年で東京都平均を上回っていたが、中学生はすべての学年で東京都平均を下回っていた。

表48・図33 むし歯のある児童生徒の割合の年次推移  
単位 (%)

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小学生	男子	50.02	48.14	44.60	42.65	38.91
	女子	44.89	43.86	41.24	39.82	38.39
	総数	47.52	46.06	42.97	41.27	38.66
中学生	男子	37.36	35.34	30.54	31.16	30.33
	女子	40.62	36.75	35.38	36.38	31.61
	総数	38.96	36.04	32.95	33.73	30.95

『う歯被患率=(処置完了者+未処置歯のある者)÷歯科受診者数×100』とした。



男女ともすべての学年で年々減少傾向にあり、過去5年間で最も低かった。

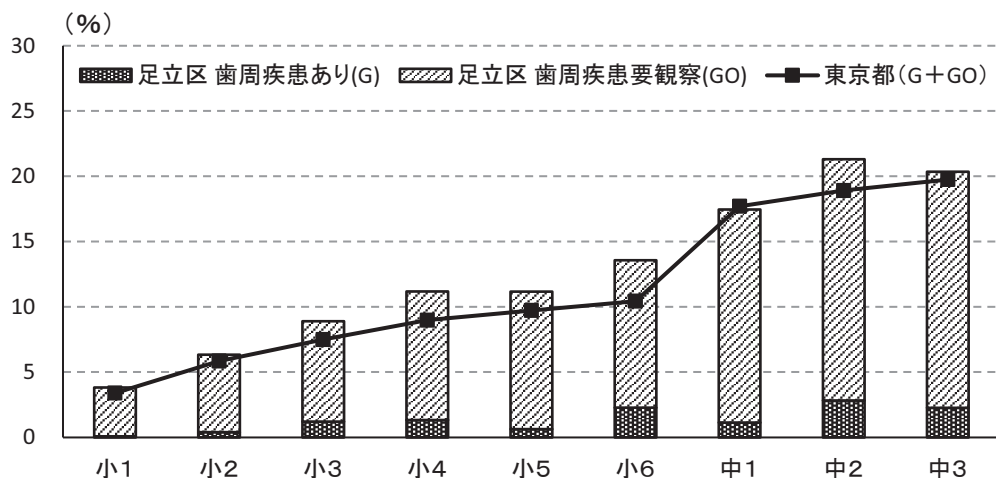
表49 むし歯のある児童生徒の割合の学年別年次推移  
単位 (%)

		男子					女子				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小学生	小1	41.08	40.79	37.36	36.43	32.65	39.28	38.82	35.26	33.73	33.63
	小2	51.32	47.97	47.26	44.00	44.25	47.17	45.49	46.99	41.32	42.21
	小3	58.30	55.59	49.98	48.70	46.64	50.80	49.51	47.54	49.59	45.83
	小4	59.32	56.95	52.32	49.96	45.56	52.33	49.98	46.24	45.93	44.28
	小5	49.10	50.06	45.12	43.66	35.37	43.96	44.60	37.29	37.02	33.69
	小6	40.44	35.94	35.20	33.25	29.64	36.25	34.17	33.99	31.16	30.30
中学生	中1	36.15	33.73	28.98	32.73	28.42	38.08	33.50	32.92	36.51	28.74
	中2	34.83	35.31	29.43	29.40	30.87	39.25	36.10	34.43	35.04	32.74
	中3	40.90	36.95	33.14	31.18	31.91	44.41	40.78	38.62	37.45	33.44

平成28年度と比較すると、むし歯のある児童生徒の割合は、男女ともすべての学年で減少した。そのうち小学3～6年生男子、小学5年生と中学3年生の女子で大きく減少した。

イ 歯肉に所見<sup>\*</sup>のある児童生徒の割合（※＝G：歯周疾患あり＋GO：歯周疾患要観察）

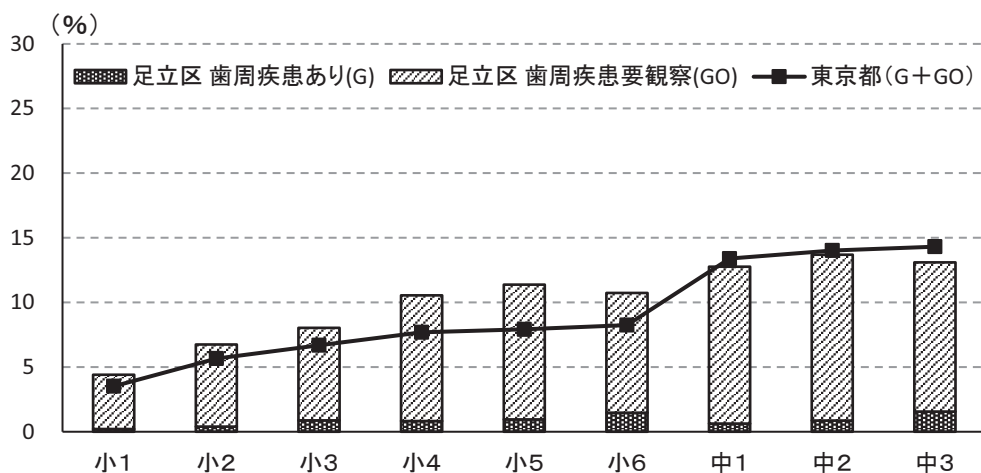
図34・表50 学年別割合および東京都比較 【男子】



単位(%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	3.81	6.33	8.89	11.18	11.16	13.56	17.45	21.30	20.34
	東京都	3.40	5.84	7.49	8.98	9.71	10.42	17.69	18.90	19.75

図35・表51 学年別割合および東京都比較 【女子】



単位(%)

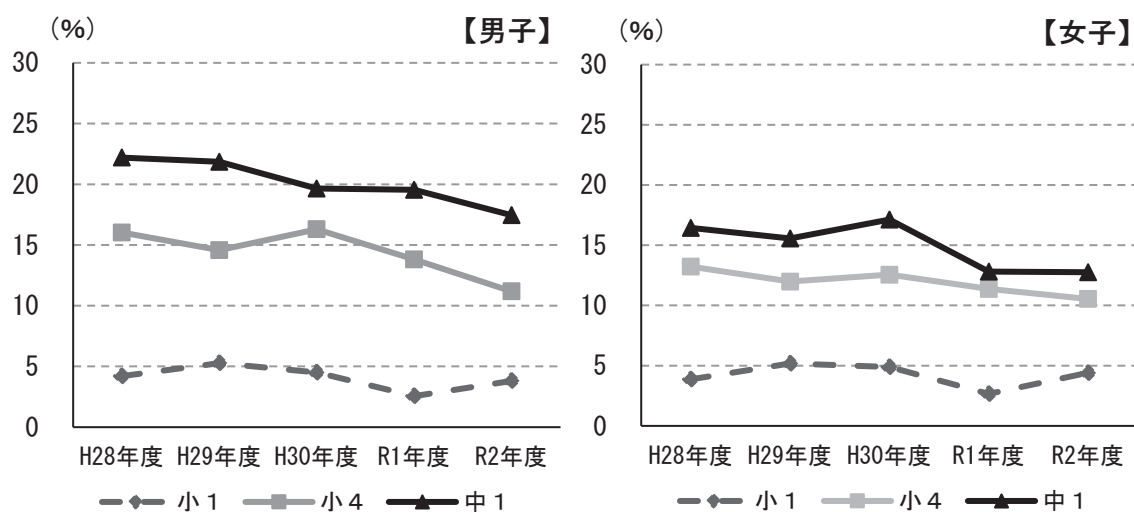
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	4.40	6.74	8.03	10.54	11.38	10.73	12.76	13.69	13.10
	東京都	3.52	5.66	6.68	7.68	7.92	8.25	13.39	14.01	14.31

男女を比較すると、歯肉に所見のある児童生徒の割合は、小学1・2・5年生を除き、男子の割合が多かった。

東京都と比較すると、小学生はすべての学年で東京都平均を上回っていたが、中学生は中学2・3年生男子を除き、東京都平均を下回っていた。

表52・図36 歯肉に所見のある児童生徒（G＋G〇）の年次推移 単位（％）

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
小1	男子	4.20	5.28	4.50	2.56	3.81
	女子	3.87	5.19	4.89	2.66	4.40
小4	男子	16.02	14.57	16.29	13.81	11.18
	女子	13.23	11.98	12.55	11.37	10.54
中1	男子	22.20	21.85	19.65	19.54	17.45
	女子	16.44	15.56	17.13	12.81	12.76



男女とも学年が上がるにつれて所見のある割合が高かった。また、小学1年生は男女ともに増加した。

<参考> 足立区糖尿病対策アクションプラン「歯科口腔保健対策編」より

■ 永久歯のう蝕（う歯）予防

単位（％）

足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H29年	H30年	R1年	R2年
小1でむし歯のない子の割合	65	60.18	63.67	64.91	66.88
小4で永久歯にむし歯のない子の割合	87	85.97	86.94	87.24	86.32
中1で永久歯にむし歯のない子の割合	70	72.15	73.80	69.95	74.59

■ 歯肉炎の予防

単位（％）

足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H29年	H30年	R1年	R2年
小4で歯肉に所見のない児童の割合	90	86.68	85.51	87.37	89.14
中1で歯肉に所見のない生徒の割合	84	81.31	81.58	83.73	84.75

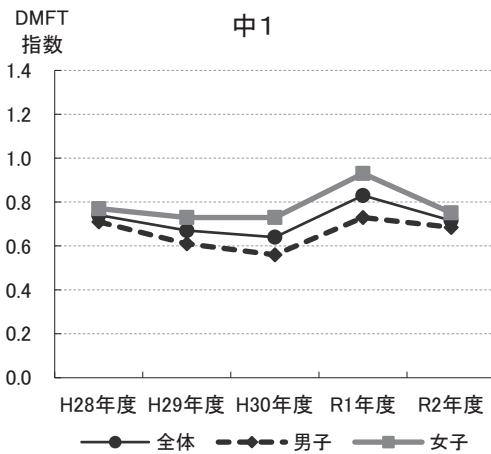
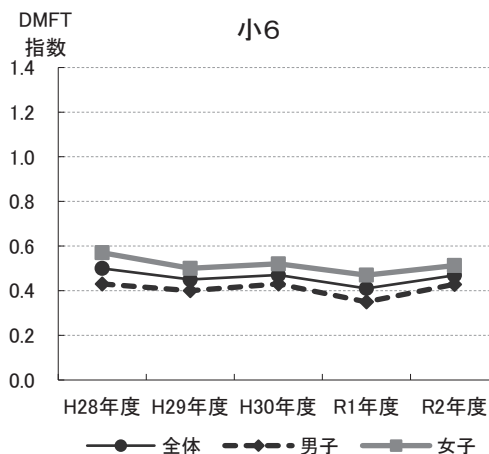


### ウ DMFT指数（1人平均永久歯のむし歯保有数）

永久歯の一人平均う歯経験歯数（DMFT指数）の算出方法	
DMFT指数とは永久歯のむし歯経験歯が、一人あたり何本あるかを示す数値	
D	……decayed：永久歯のむし歯で未処置の歯
M	……missing because of decayed：むし歯が原因で失った永久歯
F	……filled：永久歯のむし歯で処置を完了した歯
T	……teeth（歯）の頭文字
$\text{DMFT指数} = \frac{\text{受診者のDMF歯の合計}}{\text{受診者数}}$	

表53・図37 DMFT指数 年次推移

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
小 6	総 数	DMFT指数	0.50	0.45	0.47	0.41	0.47
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		う 処置歯数(F)	0.31	0.29	0.31	0.24	0.28
		歯 未処置歯数(D)	0.18	0.17	0.17	0.17	0.18
	男 子	DMFT指数	0.43	0.40	0.43	0.35	0.43
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		う 処置歯数(F)	0.26	0.25	0.28	0.20	0.25
		歯 未処置歯数(D)	0.16	0.15	0.15	0.15	0.17
	女 子	DMFT指数	0.57	0.50	0.52	0.47	0.51
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		う 処置歯数(F)	0.36	0.32	0.34	0.28	0.32
		歯 未処置歯数(D)	0.21	0.18	0.18	0.19	0.19
中 1	総 数	DMFT指数	0.74	0.67	0.64	0.83	0.72
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
		う 処置歯数(F)	0.49	0.47	0.44	0.65	0.52
		歯 未処置歯数(D)	0.25	0.20	0.20	0.18	0.18
	男 子	DMFT指数	0.71	0.61	0.56	0.73	0.68
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
		う 処置歯数(F)	0.47	0.42	0.37	0.56	0.50
		歯 未処置歯数(D)	0.24	0.19	0.19	0.17	0.17
	女 子	DMFT指数	0.77	0.73	0.73	0.93	0.75
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
		う 処置歯数(F)	0.51	0.52	0.51	0.73	0.54
		歯 未処置歯数(D)	0.25	0.21	0.22	0.20	0.20



DMFT指数は、小学6年生は男女とも増加し、中学1年生は男女とも減少した。

## 4 脊柱側わん症検診

小・中学校児童生徒の脊柱異常（脊柱がねじれを伴って左右に曲がった状態等）の早期発見・適切な健康管理を図るため、下表の検診を実施している（足立区独自で実施の検診）。

表54 検診内容

第1次検診			第2次検診		
内容	対象者		内容	対象者	
モアレ撮影 （立位背面）	1) 小学5年・中学2年の全員 2) 前年度に次年度モアレ撮影となった者 3) 他学年抽出者		直接エックス線撮影 専門医の診察	1) 今年度要精密検査になった者 2) 前年度に次年度エックス線撮影となった者	

※ モアレ撮影とは、背中に光を当て、背骨の曲がりやねじれの有無を調べる検査。

※ 他学年抽出者とは、定期健康診断で校医が必要と認めた者。

表55 第1次検診結果

単位 上段（人）／下段（％）

区分	項目	受診者数			有所見者			有所見者の内訳								
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	病院管理			次年度モアレ再検査			要2次検診		
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数
小学生	小5	2,703	2,535	5,238	81	220	301	0	1	1	77	196	273	4	23	27
					3.00	8.68	5.75	0.00	0.04	0.02	2.85	7.73	5.21	0.15	0.91	0.52
	他学年 前年より 1次受診	76	215	291	28	119	147	0	0	0	22	82	104	6	37	43
中学生	中2	2,232	2,060	4,292	270	399	669	2	15	17	232	308	540	36	76	112
					12.10	19.37	15.59	0.09	0.73	0.40	10.39	14.95	12.58	1.61	3.69	2.61
	他学年 前年より 1次受診	170	258	428	92	153	245	0	0	0	12	19	31	80	134	214
	1次受診	36	33	69	8	11	19	1	3	4	2	1	3	5	7	12

表56 第2次検診結果

単位（人）

区分	項目	対象者数			受診者数			第2次検診結果									
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	要治療			要経過観察			次年度直接XP再検査			正常範囲 総数
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	
小学生	小5	4	24	28	4	20	24	1	3	4	1	7	8	2	6	8	4
	他学年 前年より 1次受診	8	45	53	6	32	38	0	1	1	0	17	17	4	11	15	5
		0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	中2	38	95	133	28	77	105	2	10	12	7	24	31	10	31	41	21
	他学年 前年より 1次受診	91	168	259	66	144	210	1	1	2	41	92	133	2	5	7	68
		5	7	12	2	2	4	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2

※ 第2次検診の対象者は、前年の検診結果により第2次検診のみ再検査の者が含まれる。

男子より女子の方が、要治療、要経過観察者が多かった。

## 5 就学時健康診断

小学校への就学予定児を対象に、その心身の状態を把握し、健康上、適正な就学指導を行うため、毎年各小学校で健康診断を実施している。

表57 就学時健康診断結果

単位(人)

		男子	女子	計			
① 受診者数		2,575	2,485	5,060	—		
検査項目	② 栄養状態	栄養不良	0	0	0	0.00%	
		肥満傾向	8	1	9	0.18%	
	③ 脊柱異常	2	0	2	0.04%		
	④ 胸郭異常	1	5	6	0.12%		
	⑤ 裸眼視力0.3未満の者	52	56	108	2.13%		
	⑥ 難聴(両耳)	73	81	154	3.04%		
	⑦ 眼の疾病及び異常	115	92	207	4.09%		
	⑧ 耳鼻咽喉頭疾患	436	407	843	16.66%		
	⑨ 皮膚疾患	41	34	75	1.48%		
	⑩ 心臓の異常	16	15	31	0.61%		
	⑪ 運動機能障害	0	0	0	0.00%		
	⑫ 身体虚弱	0	0	0	0.00%		
	⑬ その他の疾病及び異常	24	18	42	0.83%		
疾病⑭ 歯及び 口腔 異常の	う 歯	乳 歯	処置完了者	416	357	773	15.28%
		未処置歯のある者	346	333	679	13.42%	
	永 久 歯	処置完了者	13	13	26	0.51%	
		未処置歯のある者	5	12	17	0.34%	
	不正咬合		92	113	205	4.05%	
	その他口腔の疾病及び異常		40	45	85	1.68%	

表58・図38 裸眼視力0.3未満の年次推移

単位(%)

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
男子	1.51	1.97	1.64	1.75	2.02
女子	1.13	1.19	1.42	1.49	2.25

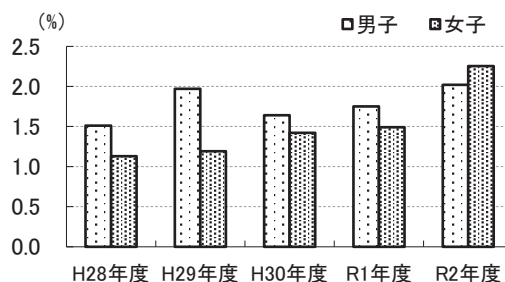
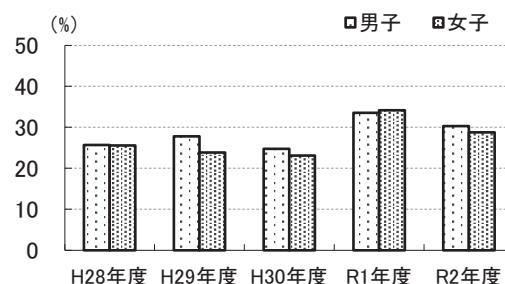


表59・図39 う歯有病率の年次推移

単位(%)

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
男子	25.67	27.77	24.75	33.52	30.29
女子	25.56	23.84	23.08	34.16	28.77



## 6 児童生徒の感染症り患状況

## (1) 調査の概要

小・中学校の児童生徒を対象に、学校感染症による出席停止者数を調査している。流行の状態を把握し、感染症予防に役立てている。

## (2) 月別患者数

表60 出席停止月別患者数 【小学生】 単位(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
第1種	新型コロナウイルス感染症	0	0	0	7	4	2	1	11	12	53	11	7	108
	インフルエンザ	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	1	0	6
第2種	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎	1	0	10	14	3	6	8	4	3	5	2	6	62
	風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水痘	0	0	7	15	5	8	19	27	12	14	3	13	123
	咽頭結膜熱	0	0	0	3	0	0	0	0	1	3	0	0	7
	結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	流行性角結膜炎	0	0	0	2	1	1	2	1	0	2	0	2	11
第3種	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸チフス・パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	溶連菌感染症	0	0	15	79	9	27	36	20	21	14	24	15	260
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手足口病	0	0	3	4	0	2	1	1	0	0	1	0	12
	伝染性紅斑	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	4
	マイコプラズマ感染症	0	0	1	2	0	1	2	0	0	0	1	0	7
	感染性胃腸炎	0	0	26	66	18	30	26	30	38	45	46	36	361
	ヘルパンギーナ	0	0	0	4	4	2	2	0	0	0	0	0	12
	帯状疱疹	0	0	0	3	0	3	1	2	3	1	0	2	15
	その他	0	0	2	1	1	2	1	1	0	3	0	2	13
	新型コロナウイルス感染症関係*1	3	0	1,578	4,654	1,790	2,475	3,701	3,174	3,081	2,678	2,850	3,245	29,229
	上記以外*2	14	0	159	349	220	97	126	119	157	562	272	96	2,171
月計	18	0	1,803	5,204	2,056	2,657	3,926	3,392	3,330	3,383	3,212	3,424	32,405	

表61 出席停止月別患者数 【中学生】 単位(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
第1種	新型コロナウイルス感染症	0	0	0	7	3	1	4	13	13	19	9	8	77
	インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
第2種	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3
	風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	水痘	0	0	2	1	0	1	3	2	1	2	1	0	13
	咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	4
第3種	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	溶連菌感染症	0	0	3	7	5	2	6	1	9	4	2	4	43
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	伝染性紅斑	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	マイコプラズマ感染症	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1	0	0	7
	感染性胃腸炎	0	0	16	29	12	19	17	13	17	30	10	13	176
	ヘルパンギーナ	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4
	帯状疱疹	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	2	7
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
	新型コロナウイルス感染症関係*1	0	0	703	1,105	650	758	839	731	784	973	796	607	7,946
	上記以外*2	0	0	75	24	28	10	12	22	20	77	74	19	361
	月計	0	0	802	1,178	700	793	884	786	846	1,109	895	656	8,649

\*1 以下に該当するものすべてを集計する(文部科学省各種通知、衛生マニュアル等による)

ア 外務省から入国制限されている各国・地域から帰国した児童生徒で2週間の自宅待機をした者

イ 濃厚接触者として自宅待機となった者

ウ 発熱等の風邪症状がみられ自宅休養となった者

エ 校内で発熱等の症状が出て、自宅で休養、家族に発熱等の症状があり、自宅待機になった者

\*2 感染経路が分からない患者が増えている地域にあり、保護者から学校を休ませたいと相談を受けて合理的な理由があると校長が判断し出席停止扱いとした者

※ 令和2年2月1日より新たに新型コロナウイルス感染症が指定感染症と指定されたことから、関連する出席停止を第一種感染症又は第三種感染症新型コロナウイルス関連として集計した。

※ 令和2年4～5月に一斉臨時休業措置をとっているが、入学式等の出席すべき日に出席停止項目で欠席した場合には、出席停止者数に計上した。また、8月は夏季休業を短縮している。

(3) 過去3年間の主な感染症り患状況

※グラフは8月除く

図40 新型コロナウイルス感染症(小学生)

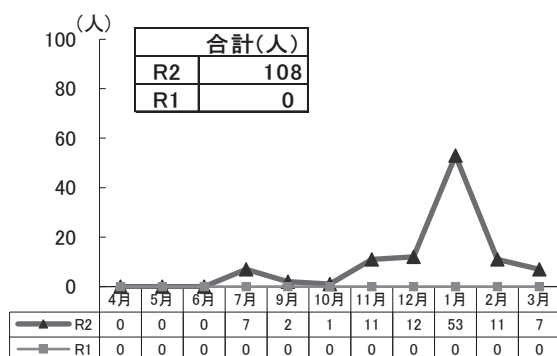
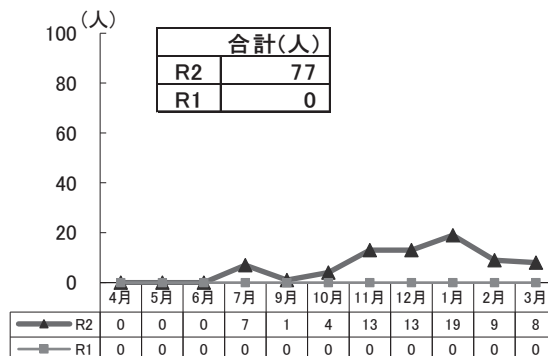


図41 新型コロナウイルス感染症(中学生)



新型コロナウイルス感染症のり患者数は、11～1月(第3波)をピークに増加した。

図42 インフルエンザ(小学生)

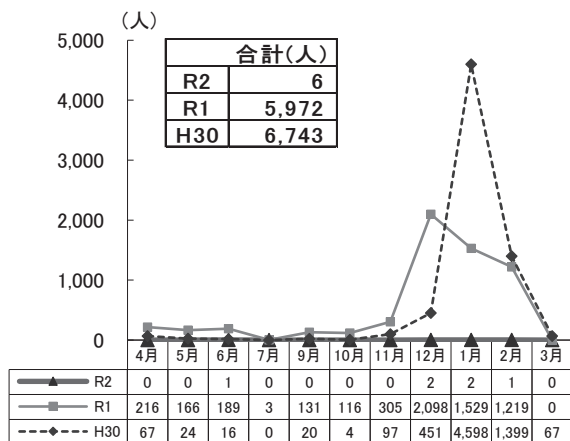
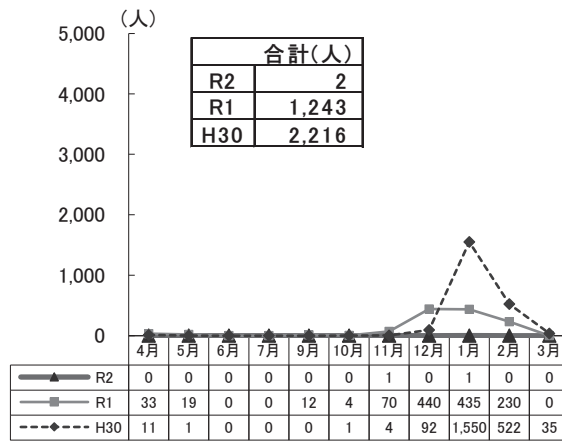


図43 インフルエンザ(中学生)



インフルエンザは、ほとんど発生がなかった。

図44 溶連菌感染症(小学生)

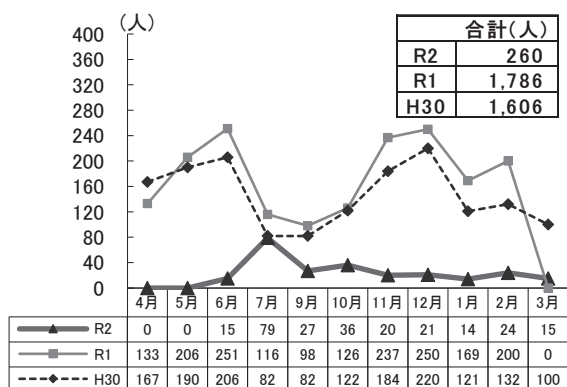
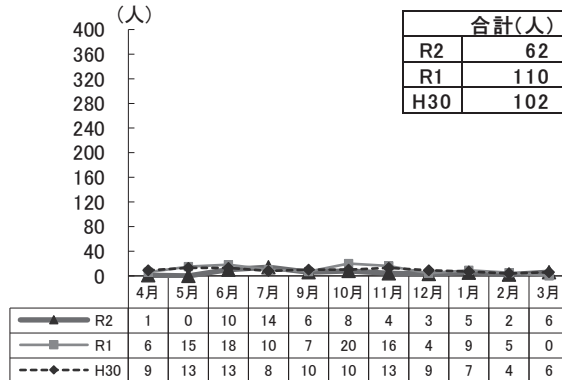


図45 流行性耳下腺炎(小学生)



## 7 学校管理下における災害統計

災害統計は、小・中学校の管理下における児童生徒の負傷および疾病（熱中症・食中毒等）の災害報告のまとめである。

### （1）災害発生状況

令和2年度は令和2年4～5月に一斉臨時休業措置をとっている。

表62 災害発生件数および発生率 単位 在籍数(人) / 件数(件) / 発生率(%)

	小学生			中学生			合計		
	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率
H28年度	31,434	915	2.91	14,070	589	4.19	45,504	1,504	3.31
H29年度	31,393	807	2.57	13,822	552	3.99	45,215	1,359	3.01
H30年度	31,668	792	2.50	13,434	509	3.79	45,102	1,301	2.88
R1年度	31,507	819	2.60	13,345	566	4.24	44,852	1,385	3.09
R2年度	31,213	586	1.88	13,429	457	3.40	44,642	1,043	2.34

※ 災害件数には、疾病件数(令和2年度は小学校48件、中学校：26件)を含む。

※ 在籍数は各年度5月1日現在の人数。

過去5年間の災害発生件数および発生率は、小学生・中学生ともに概ね横ばいであった。

表63・図46 負傷の種類 単位 上段(件) / 下段(%)

種類		骨折	捻挫	挫創	挫傷・打撲	切創	脱臼	歯牙破折	その他	合計
小学生	件数	175	130	29	150	10	10	6	28	538
	割合	32.53	24.16	5.39	27.88	1.86	1.86	1.12	5.20	100.0
中学生	件数	157	104	6	119	4	12	3	26	431
	割合	36.43	24.13	1.39	27.61	0.93	2.78	0.70	6.03	100.0
合計	件数	332	234	35	269	14	22	9	54	969
	割合	34.26	24.15	3.61	27.76	1.44	2.27	0.93	5.57	100.0

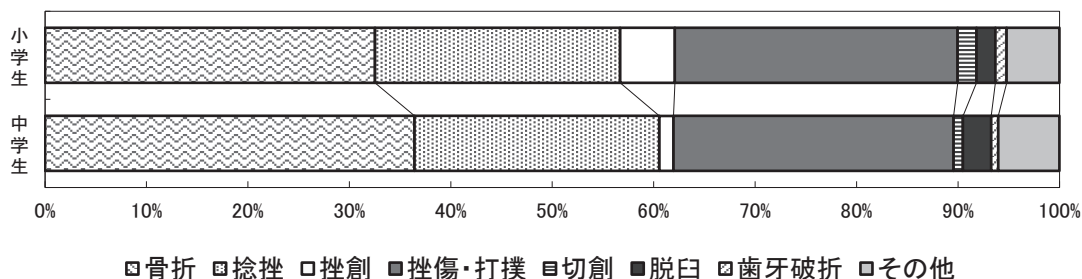
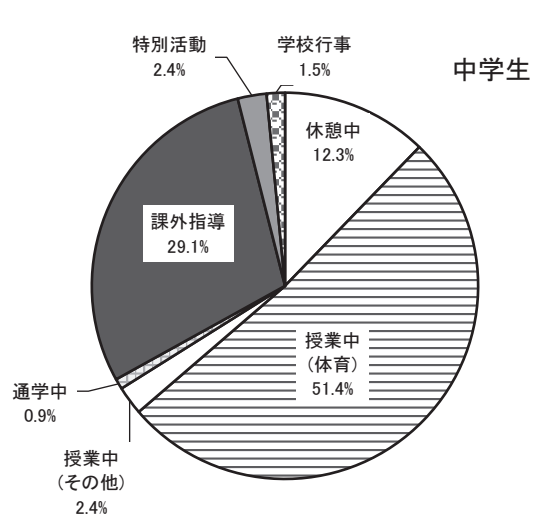
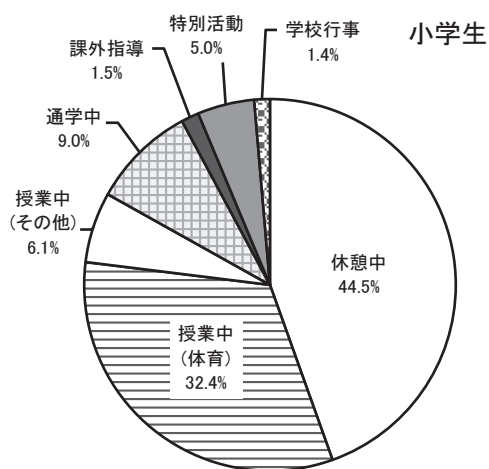


表 6 4 ・ 図 4 7 災害発生時の活動状況

単位 上段 (件) / 下段 (%)

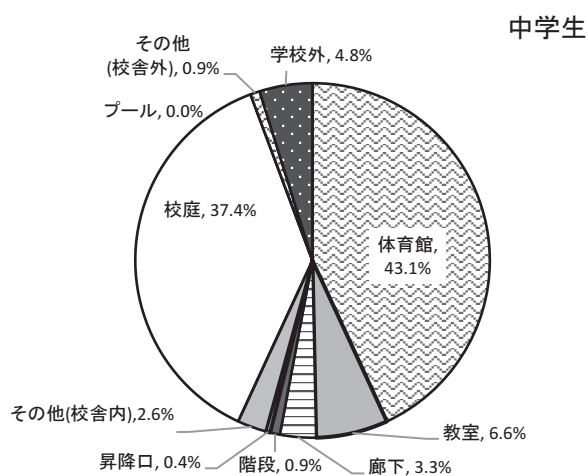
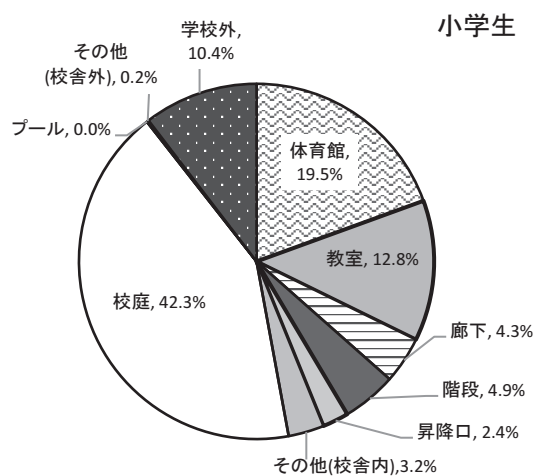
時間帯		休憩中	授業中		通学中	課外指導	特別活動	学校行事	合計
			体育	その他					
小学生	件数	261	190	36	53	9	29	8	586
	割合	44.54	32.42	6.14	9.04	1.54	4.95	1.37	100.0
中学生	件数	56	235	11	4	133	11	7	457
	割合	12.25	51.42	2.41	0.88	29.10	2.41	1.53	100.0
合計	件数	317	425	47	57	142	40	15	1,043
	割合	30.39	40.75	4.51	5.47	13.61	3.84	1.44	100.0

※ 休憩中 … 始業前、放課後等を含む。  
 課外指導 … 部活動、林間学校、水泳指導など。



小学生は休憩中の災害、中学生は体育の授業中の災害が多かった。

図 4 8 災害発生時の場所

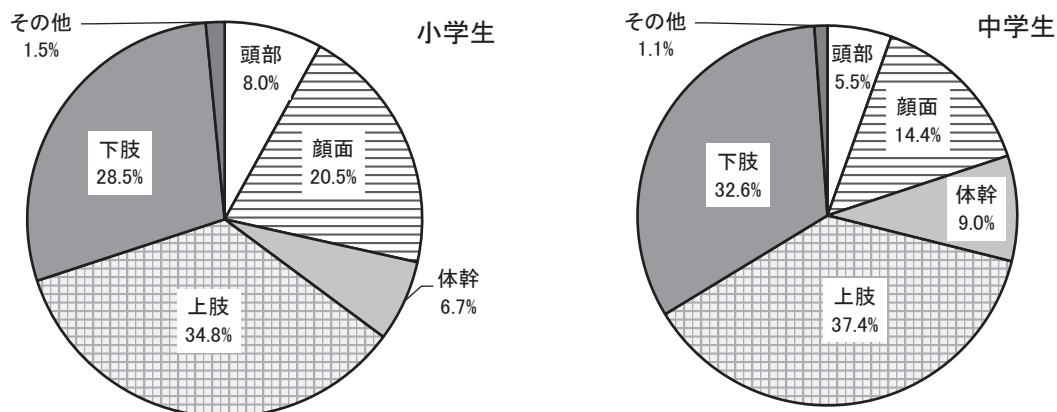


小学生は校庭、中学生は体育館・校庭での災害が多かった。

表 65・図 49 災害の部位別発生状況

単位 上段(件) / 下段(%)

部位別		頭部	顔面	体幹	上肢	下肢	その他	合計
小学生	件数	47	120	39	204	167	9	586
	割合	8.02	20.48	6.66	34.81	28.50	1.54	100.0
中学生	件数	25	66	41	171	149	5	457
	割合	5.47	14.44	8.97	37.42	32.60	1.09	100.0
合計	件数	72	186	80	375	316	14	1,043
	割合	6.90	17.83	7.67	35.95	30.30	1.34	100.0

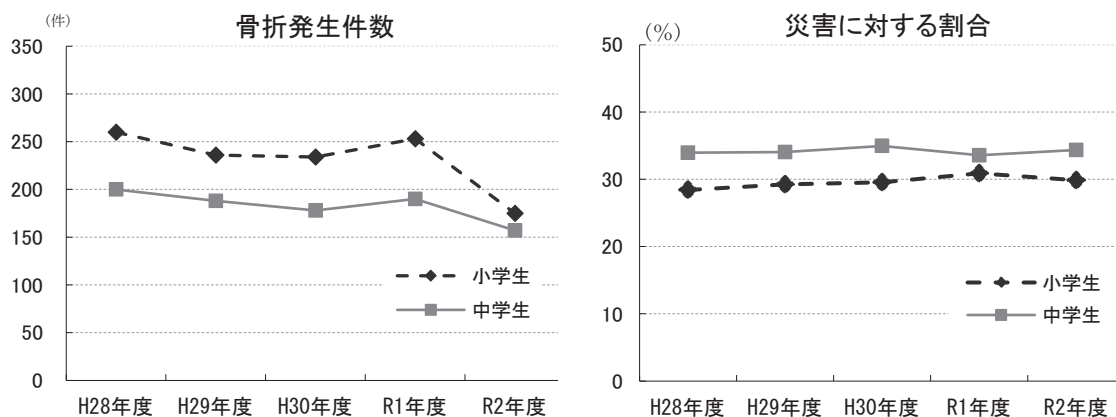


小学生、中学生ともに上肢を負傷する災害が最も多かった。

表 66・図 50 骨折発生件数および発生率の推移

単位 件数(件) / 割合(%)

	小学生			中学生			合計		
	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合
H28年度	260	0.83	28.42	200	1.42	33.96	460	1.01	30.59
H29年度	236	0.75	29.24	188	1.36	34.05	424	0.93	31.19
H30年度	234	0.74	29.55	178	1.32	34.97	412	0.91	31.67
R1年度	253	0.80	30.89	190	1.42	33.57	443	0.99	31.99
R2年度	175	0.56	29.86	157	1.17	34.35	332	0.74	31.83



小学生、中学生ともに骨折発生数は前年度に比べ減少したが、災害に対する割合は横ばいであった。



## (2) 災害共済掛金および給付状況

表 6 7 災害共済掛金 単位 (円)

	掛 金 額
小学校	28,636,410
中学校	12,166,495
合 計	40,802,905

表 6 8 給付件数・金額 単位 件数 (件) / 金額 (円)

	小学校		中学校		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金額
死亡見舞金	0	0	0	0	0	0
障害見舞金	0	0	0	0	0	0
医療費給付	1,036	8,030,136	966	7,954,188	2,002	15,984,324
供 花 料	0	0	0	0	0	0
合 計	1,036	8,030,136	966	7,954,188	2,002	15,984,324

表 6 9 医療費別給付状況 単位 件数 (件) / 金額 (円)

種類 月	小学校		中学校		合計	
	件 数	給付金額	件 数	給付金額	件数	金額
4	200	1,476,231	101	678,144	301	2,154,375
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	122	1,078,779	127	935,033	249	2,013,812
8	85	672,481	46	352,208	131	1,024,689
9	37	203,072	29	317,896	66	520,968
10	53	385,267	50	353,756	103	739,023
11	62	541,292	75	561,374	137	1,102,666
12	93	656,980	89	748,031	182	1,405,011
1	122	1,021,021	120	1,693,772	242	2,714,793
2	128	753,908	168	1,261,264	296	2,015,172
3	134	1,241,105	161	1,052,710	295	2,293,815
合 計	1,036	8,030,136	966	7,954,188	2,002	15,984,324

災害1件あたりの平均給付金額	¥15, 325-
----------------	-----------

災害1件あたりの平均給付金額＝合計給付金額／災害発生件数(給付件数ではない)  
「負傷の種類」や「災害発生時の活動状況」等の数字は“負傷”の件数で“疾病”の件数は入っていない。  
災害発生件数は“負傷”件数＋“疾病”件数である。

## 【資料1】 貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準

### 1 『項目別判定』及び『コメント』

#### (1) 小児生活習慣病予防健診

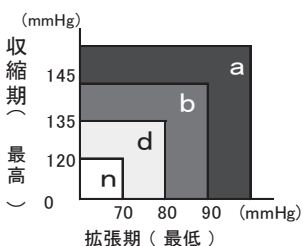
##### ① 肥満(肥満度)

肥満度は、年齢・性別・身長別の標準体重から算出する。

肥満度(%)	判定	
50.0%以上	a	かなりの肥満
30.0 ~ 49.9%	b	肥満
20.0 ~ 29.9%	c	肥満ぎみ
-19.9 ~ 19.9%	n	正常体格群
-20.0%以下	y	やせすぎ傾向

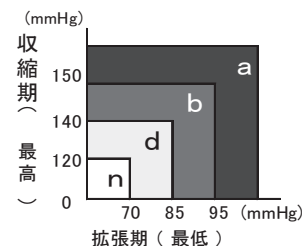
##### ② 血圧

小学生【男女】と中学生【女】



a : 高血圧  
b : 軽度の高血圧

中学生【男】と高校生【男女】



d : 正常範囲だがやや高め  
n : 正常範囲

##### ③ 血清脂質

(ア) 総コレステロールとHDLコレステロール

総コレステロール (mg/dl)	HDLコレステロール (mg/dl)	
	≥ 40	>
280	a	a
240	b	a
220	c	b
190	d	c
	n	d

(イ) LDLコレステロール

190 mg/dl 以上	a
160 ~ 189 mg/dl	b
140 ~ 159 mg/dl	c
110 ~ 139 mg/dl	d
109 mg/dl 以下	n

a : 血清脂質の値にかなり異常  
b : 血清脂質の値に異常  
c : 血清脂質の値に異常傾向  
d : 血清脂質の値にやや異常傾向  
n : 正常範囲

血清脂質判定において、(ア)と(イ)の判定が異なるときはより重い方の判定を採択し、両者が同一判定区分であれば(aとnを除く)1ランク上の重い判定とする。

#### (2) 貧血検査

性別・年齢別の基準値 ※平成29年度に基準値・分類を変更。

		白血球数(/mm <sup>3</sup> )	
男女	全員	3,000 ~ 12,900	
男子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13・14歳		12.1 ~ 17.0
	15歳		12.6 ~ 18.0
	16歳以上		13.1 ~ 18.0
女子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13歳以上		12.0 ~ 16.0

平均赤血球容積(FI) 75.0 ~ 99.9

### 2 『総合判定区分』及び『指導コメント』

I-1	糖尿病が(a)	要医学的管理	引き続き専門医を受診してください。
I-2	1項目でも(a)※I-1除く	要医学的管理	専門医に相談してください。
I-3	(a)は無いが「血圧」「脂質」共に(b)	要医学的管理	専門医に相談してください。
II	(a)は無いが1項目でも(b)	要経過観察	医師や学校の先生・保護者の方などと相談し、バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。6ヶ月~1年後には再検査を受けてください。
III	(a)(b)はないが1項目でも(c)	要生活指導	バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。
IV	(a)(b)(c)はないが1項目でも(d)	管理不要	今後とも、正しい生活習慣を心がけてください。※次回の健診時にいろいろな検査項目の変化にもよく注意してみましょう。
n	すべての項目が(n)	正常	今回の健診結果では特に異常はありませんでした。現在のよい状態を続けるよう心がけてください。

### 3 ヘモグロビンA1cの判定基準

高値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0~6.4%	医療機関(かかりつけ医、学校医)で再検査(空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査)をお勧めします。
正常範囲	d	5.6~5.9%	正常高値です(2年生は来年度、学校で再検査)。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

## 【資料2】 定期健康診断疾病異常調査の概要

### 1 調査の内容

学校保健安全法による定期健康診断の結果から、区立小・中学校の児童生徒の健康実態を把握することを目的に調査を実施している。

#### (1) 対象

区立小・中学校における令和2年度定期健康診断を受診した児童生徒全員

#### (2) 項目

学校保健安全法に基づく定期健康診断における検査項目及び、その他、児童生徒の健康実態を把握するために必要な事項

ア 児童生徒の発育状態（身長・体重・肥満度）

イ 疾病異常調査 調査項目の詳細については、次頁参照

#### (3) 期間

令和2年4月～令和3年3月末日（学校保健安全法による定期健康診断実施時期）

※ 令和2年度は、文部科学省の通知により、新型コロナウイルス感染症の影響により例年6月末日までに実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなった。

#### (4) 方法

ア 児童生徒の発育状態

C4t h（校務支援システム）にて身体計測（身長・体重）及び肥満度の調査を各小・中学校へ依頼し、集計する。

イ 疾病異常調査

各小・中学校から「定期健康診断疾病異常調査票」を回収、集計し東京都へ報告する。

※ 疾病異常調査データの集計は、末巻に掲載【資料3（A3版）】

本報告書では、この資料を元に東京都との比較、年次推移等の加工データを掲載している。

学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令（平成26年文部科学省令第21号）

平成26年4月30日公布

児童生徒等の健康診断に係る改正規定 平成28年4月1日から施行

#### 【改正に伴う平成28年度からの変更点】

(1) 座高の検査について、必須項目から削除

(2) 寄生虫卵の有無の検査について、必須項目から削除

(3) 「四肢の状態」を必須項目として加えるとともに、四肢の状態を検査する際は、四肢の形態及び発育並びに運動器の機能の状態に注意することを規定すること→運動器検診の実施

(4) 色覚検査について、積極的な周知をし、希望者には適切に検査ができる体制を整えること→色覚検査を希望者へ実施（小学4年生、中学1年生）

## 2 令和2年度 定期健康診断疾病異常調査 調査項目

No.	項目	調査内容	調査対象者	
1	1在籍者数	5月1日現在の学年別在籍者数	全員	
2	2受診者数	各学年毎の定期健康診断受診者数(以下の3栄養状態、4脊柱胸郭、9皮膚疾患、13その他の各項目をすべて受診した者)	全員	
3	3栄養状態	(1)栄養不良	学校医により栄養不良で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
4		(2)肥満傾向	学校医により肥満傾向で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
5	4脊柱胸郭 四肢	疾病・異常者数	以下の(1)脊柱側弯症・脊柱異常、(2)胸郭異常、(3)四肢異常のいずれかが、異常と判定された者の人数 1人が(1)から(3)で複数の異常がある場合は1人と数える	全員
6		(1)脊柱側弯症・脊柱異常	脊柱側弯症、脊柱側弯など脊柱の異常と判定された者	全員
7		(2)胸郭異常	胸郭異常と判定された者	全員
8		(3)四肢異常	四肢異常と判定された者	全員
9	5視力	裸眼視力	裸眼視力を測定した者の数。以下(1)～(4)及び「眼鏡・コンタクト着用者」は裸眼視力を測定した者のみが対象。左右それぞれの測定値の低い方。	全員
10		(1)1.0以上	低い方の視力が1.0以上と判定された者	全員
11		(2)1.0未満0.7以上	低い方の視力が0.9から0.7と判定された者	全員
12		(3)0.7未満0.3以上	低い方の視力が0.6から0.3と判定された者	全員
13		(4)0.3未満	低い方の視力が0.2以下と判定された者	全員
14		(1)～(4)のうち、眼鏡・コンタクト着用者	裸眼視力測定者のうち、眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしている者	全員
15	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者	眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしているため、裸眼視力を測定できず、矯正視力のみ測定した者	全員	
16	6眼疾患	受診者	全員	
17	疾病・異常者数	以下の(1)感染性眼疾患、(2)アレルギー性眼疾患、(3)その他の眼疾患のいずれかと判定された者の人数	全員	
18		(1)感染性眼疾患	咽頭結膜炎、流行性角結膜炎、出血性結膜炎と判定された者	全員
19		(2)アレルギー性眼疾患	ここ1年以内に、アレルギー性結膜炎、春季カタル、花粉症などのアレルギー性の眼疾患と判定された者	全員
20		(3)その他の眼疾患	感染性眼疾患、アレルギー性眼疾患以外の眼疾患・異常のある者。疑似トラコーマ、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、睫毛内反(さかさまつげ)、先天性の色素不足による金銀眼、片目失明などの疾患・異常と判定された者。また視力低下の原因となる疾患・異常(例えば網膜色素変性、緑内障)を含むが、近視、遠視、乱視などの屈折異常は除く。	全員
21	7聴力	受診者	小学1～3年・5年 中学1年・3年	
22		難聴	オージオメーターを使用して検査をした場合、両耳とも1,000ヘルツにおいて30デシベル又は4,000ヘルツにおいて25デシベル相当の音が聴取できない者	小学1～3年・5年 中学1年・3年
23	8耳鼻咽喉科疾患	受診者	全員	
24		(1)耳疾患	難聴以外の耳疾患・異常の者。例えば急性又は慢性中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳介の欠損、耳垢栓塞等の疾患・異常と判定された者	全員
25		(2)鼻・副鼻腔疾患	以下の「ア アレルギー性鼻疾患」、「イ その他の鼻・副鼻腔疾患」のいずれかと判定された者の人数 1人がア及びイの両方の疾患がある場合は1人と数える	全員
26		ア アレルギー性鼻疾患	ここ1年以内に、アレルギー性鼻炎、花粉症などの鼻のアレルギー性疾患と判定された者	全員
27		イ その他の鼻・副鼻腔疾患	鼻アレルギー以外の鼻・副鼻腔疾患・異常の者。例えば慢性副鼻腔炎(蓄膿症)、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、鼻中隔湾曲等。ただし感冒による一時的な鼻炎等の疾患・異常と判定された者は除く。	全員
28		(3)口腔咽喉頭疾患	アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常などの疾患・異常と判定された者。ただし感冒による一時的な咽頭炎などの疾患・異常と判定された者は除く。	全員
29	9皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患	白癬、疥癬、その他の感染性皮膚疾患と判定された者	全員
30		(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)	ここ1年以内に、アトピー性皮膚炎と判定された者	全員
31		(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)	ここ1年以内に、蕁麻疹や薬疹、接触皮膚炎などのアトピー性皮膚炎以外のアレルギー性皮膚疾患と判定された者	全員
32		(4)その他の皮膚疾患	上記、(1)感染性皮膚疾患、(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)、(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)以外の皮膚疾患と判定された者	全員

※令和2年度学校保健統計調査実施通知より

【資料2】 定期健康診断疾病異常調査の概要

No.	項 目		調 査 内 容	調 査 対 象 者	
33	10結核	受診者	結核検診(問診及び学校医による診察)を受けた者の数	全員	
34		(1)結核患者	結核患者と判定された者。個人的に医師の診察を受けて結核と診断された者を含む。潜在性結核を除く。	全員	
35		(2)精密検査対象者	結核検診の結果、ツベルクリン反応検査、エックス線撮影などの精密検査の対象となった者	全員	
36	11心臓	受診者(心電図検査)	心電図検査の受診者数	小学1年 中学1年	
37		(1)心臓疾患	心膜炎、心包炎、心内膜炎、弁膜症、狭心症、心臓肥大、その他の心臓疾患・異常の者。心電図異常のみの者は含まない。	全員	
38		(2)心電図異常	心電図検査の結果で二次検診の対象となった者	小学1年 中学1年	
39	12検尿	受診者		全員	
40		(1)尿蛋白検出	第一次検査の結果、尿蛋白が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員	
41		(2)尿糖検出	第一次検査の結果、尿糖が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員	
42	13その他	(1)気管支喘息	ここ1年以内に、気管支喘息と判定された、または医療機関で経過観察管理中の者	全員	
43		(2)腎臓疾患	急性及び慢性腎炎、ネフローゼ症候群などの腎疾患と判定された者	全員	
44		(3)言語障害	話し言葉の働きに障害のある者をいい、例えば、吃音(どもり)、発音の異常、発声の異常(聞きつき手が理解しにくい程度の発音や声の障害)、口蓋裂、脳性麻痺等に伴う言葉の異常、難聴によるこがれつ発音の異常、その他情緒的原因による緘黙症、自閉症や言語中枢に障害のある失語症である。	特別支援学校 以外全員	
45		(4)その他の疾病・異常	この調査のいずれの項目にも該当しない疾病・異常	特別支援学校 以外全員	
46	14歯科	(1)歯科受診者	歯及び口腔の検査を受けた者の数	全員	
47		(2)う歯・乳歯または永久歯の要観察歯	ア 処置完了者 乳歯又は永久歯にう歯(COは入れない)がある者のうち、全部のう歯の処置が完了している者	全員	
48			イ 未処置歯のある者 乳歯又は永久歯にう歯(COは入れない)がある者のうち、処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員	
49		ウ 永久歯のう歯経験者	永久歯のう歯について、処置が完了している者、及び処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員	
50		エ 乳歯または永久歯に要観察歯のある者	乳歯又は永久歯に要観察歯(CO)が1本以上ある者	全員	
51		(3)歯肉の状態	ア 歯周疾患 「歯肉の状態」が2と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員	
52		イ 歯周疾患要観察者	「歯肉の状態」が1と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員	
53		(4)歯列・咬合の異常	「歯列・咬合」が2と判定された者	全員	
54		(5)顎関節の異常	「顎関節」が2と判定された者	全員	
55		(6)歯垢の状態	歯に相当の付着がある者をいう。小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校については、各学校種の歯・口腔の健康診断票において、「歯垢の状態」が「2」(相当の付着がある)と判定された者。	全員	
56		(7)その他の歯・口腔の疾病・異常	「その他の疾病及び異常」欄に記載のある者 ※むし歯や歯周疾患、歯列・咬合および顎関節以外の歯・口腔の疾患・異常(例えば、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂(こがれつ)、舌小帯異常、だ石、癒合歯、過剰歯、先天性欠如の疑い、エナメル質形成不全等)が該当する。歯石や歯垢は含まない。	全員	
57		(8)永久歯のう歯の内容	ア 未処置歯数(D)	未処置歯の数	小学6年 中学1年
58			イ う歯による喪失歯数(M)	う歯が原因で脱落したり、抜去した永久歯の本数。 ※外傷や矯正治療のために抜歯した歯及び抜歯理由や欠損の原因が不明のものは対象外なので、抜歯理由をよく確認すること。	小学6年 中学1年
59			ウ 処置歯数(F)	処置歯の数	小学6年 中学1年
60	15備考				

※「疾病・異常者」の取扱いについて

「疾病・異常者数」の各欄には、学校における健康診断で実施された検査項目で学校医又は学校歯科医が疾病・異常と判定した者の人数を入力します。しかし、アレルギー性眼疾患やアレルギー性鼻疾患、アレルギー性皮膚疾患、喘息などのアレルギー性疾患は必ずしも健康診断時に症状が出ているわけではありません。結核患者、心臓疾患、腎臓疾患等も診断のみでは必ずしも診断できません。

健康診断の結果、疾病・異常と判定されなかったが、医療機関において、医師から疾病・異常と診断されており、その旨を学校で把握している者も「疾病・異常者」として取扱いします。ただし、治療後など、疾病・異常の疑いがなく、単に「経過観察」と判定された場合には、疾病・異常者には計上しません。

**【資料3】 定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計 (実数)**

	男 子									女 子								
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1 在籍者数	2588	2620	2636	2608	2746	2793	2419	2354	2183	2392	2549	2571	2568	2584	2580	2161	2200	2078
2 受診者数	2553	2571	2604	2572	2701	2744	2343	2229	2048	2357	2508	2549	2542	2541	2535	2087	2101	1952
3 栄養状態	(1)栄養不良																	
	(2)肥満傾向																	
4 脊柱胸郭 四肢	疾病・異常者数																	
	(1)脊柱側湾症・脊柱異常																	
	(2)胸郭異常																	
	(3)四肢異常																	
5 視力	裸眼視力		裸眼視力測定者 (1)~(4)の合計															
	視力		(1)1.0以上															
			(2)1.0未満0.7以上															
			(3)0.7未満0.3以上															
			(4)0.3未満															
			裸眼視力測定者のうち眼鏡・コンタクト装用者															
		眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者																
6 眼疾患	受診者																	
	疾病・異常者数																	
	(1)感染性眼疾患																	
	(2)アレルギー性眼疾患																	
	(3)その他の眼疾患																	
7 聴力	受診者																	
	難聴																	
8 耳鼻咽喉 科疾患	受診者																	
	(1)耳疾患																	
	(2)鼻・副鼻腔疾患																	
	ア アレルギー性鼻疾患																	
	イ その他の鼻・副鼻腔疾患																	
(3)口腔咽喉頭疾患																		
9 皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患																	
	(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)																	
	(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)																	
	(4)その他の皮膚疾患																	
10 結核	受診者																	
	(1)結核患者																	
	(2)精密検査対象者																	
11 心臓	受診者(心電図検査)																	
	(1)心臓疾患																	
	(2)心電図異常																	
12 検尿	受診者																	
	(1)尿蛋白検出																	
	(2)尿糖検出																	
13 その他	(1)気管支喘息																	
	(2)腎臓疾患																	
	(3)言語障害																	
	(4)その他の疾病・異常																	
14 歯科	(1)歯科受診者																	
	(2)う歯	乳歯又は永		ア 処置完了者														
		・要観 久歯のう歯		イ 未処置歯のある者														
	察歯	ウ 永久歯のう歯経験者																
		エ 乳歯又は永久歯に要観察歯のある者																
	(3)歯肉	ア 歯周疾患																
		の状態 イ 歯周疾患要観察者																
	(4)歯列・咬合の異常																	
	(5)顎関節の異常																	
	(6)歯垢の状態																	
	(7)その他の歯・口腔の疾病・異常																	
(8)永久歯の う歯の内容	ア 未処置歯数(D)																	
	イ う歯による喪失歯数(M)																	
	ウ 処置歯数(F)																	

【資料3】 定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計



令和2年度 足立区学校保健統計書

令和4年3月 発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区学校運営部学務課

足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5971

印刷 株式会社 イマイシ